

平成23～26年度共同研究実績
「外部資金導入」の視点から

— 評価報告書 —

平成28年3月
北見工業大学

北見工業大学
平成 23～26 年度共同研究実績
「外部資金導入」の視点からの評価

北見工業大学の平成 23～26 年度の共同研究実績を評価して

民間等との共同研究（以下共同研究）は昭和 58 年、知の拠点としての大学が社会連携活動に係る最も具体的かつ実践的なシステムとして制度化された。平成 4 年設置の北見工業大学社会連携推進センター（旧地域共同研究センター、以下 CRC）は、共同研究をはじめ技術・知財相談、講習会・講演会等を介して大学と（地域）社会のインターフェースとして活動し、多くの成果を上げてきた。

本調査報告書は、国立大学改革プランに基づく第 2 期中期目標期間（平成 22～27 年度）内の平成 23～26 年度における共同研究について、外部資金導入の視点から評価、提言したものである。共同研究は、企業、大学および実践者である双方の研究者が企画から成果の取り扱いを含む終了までのすべてにわたり、対等の立場・責任で協働して取り組むのが基本である。一方、共同研究を財源として真正面からとらえた論議は従来ほとんどされていない。このため外部資金導入の視点からの評価にはいささか戸惑い、委員を悩ませたところである。しかし、共同研究が貴重な外部資金導入源としてこれまでも大学を支えてきたのは紛れもない事実であり、その重要度は今後ますます増大するものと考えられる。

本調査報告書は、研究協力課が行った実績調査、企業へのアンケート調査結果を基に芝綜合法律事務所弁護士舩井一仁ワーキンググループ委員、北海道大学産学・地域協働推進機構特任教授末富弘ワーキンググループ委員、二俣正美の 3 名が分析評価し、大学への提言を含めて取りまとめたものである。共同研究の推進には企業、大学および研究者がソフト・ハード面で柔軟に対応でき、相互にメリットを享受できる体制づくりが不可欠である。本報告書が実りある共同研究の推進に貢献できれば幸いである。

アンケート調査にご協力いただいた企業、データ収集にご協力いただいた関係各位に深甚の謝意を表す。

平成 28 年 3 月

北見工業大学共同研究に関する外部評価

ワーキンググループ委員

一般社団法人北見工業技術センター運営協会

地域産業プロデューサー 二俣 正美

目 次

I	評価結果の要約	
1.	共同研究実績に対する所見	1
2.	外部資金導入の視点から大学に対する提言	2
II	外部評価ワーキンググループ委員による評価結果	
1.	共同研究実績に対する所見	3
2.	外部資金導入の視点から大学に対する提言	5
1	共同研究の状況から見た北見工業大学の特徴	
1.1	共同研究の実績	7
1.2	ニーズから見た研究の特性	11
1.3	技術面から見た研究	17
2	アンケート調査の結果	
2.1	調査対象と回答数	22
2.2	共同研究の成果について	23
2.3	共同研究の満足度等について	37

資料編

機関別一覧、年度別一覧

I 評価結果の要約

北見工業大学の平成 23～26 年度の共同研究実績を外部資金導入の視点から評価した。その結果を、「1. 共同研究実績に対する所見」と「2. 大学に対する提言」に分けて要約しまとめた。

1. 共同研究実績に対する所見

1) 全体的傾向 件数・金額の総額、推移

- ・共同研究の受入れ件数・金額は毎年度 80 件、8,800 万円を超える水準にある。貴重な自己収入財源であり評価できる。
- ・一般論として共同研究件数の推移、学科別の構成、業種等を見ても、健闘していることが伺える。
- ・共同研究件数はここ 4 年間順調に増加しているがピークである平成 19 年度の 99 件より 13%減であり、まだまだ回復とはいいがたい。
- ・第 2 期中期目標期間における共同研究の受入れ実績は第 1 期期間と比較し件数・金額とも減少しており、その要因を分析して適切に対処することが求められる。

2) 一件当たり金額

- ・平成 26 年度の共同研究の 1 件当たりの金額は前回調査時に比べ減少しており、地域別、業種別の分析が必要である。

3) 内訳 研究者所属学科

- ・共同研究の学科別受入れ件数の割合では、前回・前々回の調査結果と比べ機械工学科が低調であり、要因の分析と適切な対処が求められる。

4) 内訳 きっかけ

- ・共同研究開始のきっかけは、「独自に教員と連絡をとる」が 80%以上と最多であるが継続性に問題があり、効果的かつ持続的なきっかけづくりを組織的に目指す必要がある。

5) 内訳 パートナの種別／地域別

- ・共同研究相手先の民間企業の 68%が道外企業であることは、研究水準の維持と本学の独自性の発揮から高く評価できる。また、国や地方自治体等との共同研究の多さは本学の特徴であり、社会貢献、地域貢献の視点から高く評価できる。
- ・道内企業の比率は 15%で圏内企業の 17%を下回り、やや低すぎる感は否めない。
- ・広く北海道地区における学問の最高学府のイメージ戦略と同時に、北海道・北見市と協力して企業誘致を推進する機能が問われているように感じる。

6) 内訳 分野／地域性

- ・北見工大の場合には地域性が最大の特徴であることから、業種などの比較、ニーズとシーズと地域との密着度合にもかかる傾向が現れることを評価する。

7) 関連管理、リスク管理

- ・外部資金導入にあたっては法律問題も関連してくる。それら周辺の分野への問題意識も十分に共有されていると評価する。

2. 外部資金導入の視点からの大学に対する提言

1) 共同研究の促進

- ・共同研究は教育面での意義も大きい。例えばテーマを提示した共同研究の公募など、新しい共同研究の進め方についても検討する必要がある。

- ・共同研究には外部資金導入および研究手段としての2つの面があり、課題はあるがそれに増すメリットがある。件数や金額に一喜一憂すべきではないが、共同研究意欲を喚起するインセンティブの拡大が求められる。

2) 共同研究の大型化

- ・共同研究が複数の教員・学科にまたがる研究は今後の拡大を期待できるが、例はごく少数と推測される。その推進のための体制作りが必要である。科学研究費補助金においても系にまたがる総合系を規定して平成25年度から公募している。2F3
- ・共同研究を契機に企業と大学教員がコンソーシアムを形成し、各省庁や研究支援機関等の公募事業に応募して数千万円単位の研究補助金を獲得した例はこれまでも多くある。社会連携推進センターをはじめオホーツク産学官融合センター、独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道北見オフィス、北海道知的財産情報センター北見サテライト等が連携して情報を提供、支援する必要がある。
- ・共同研究の大型化、研究成果の社会実装を目指し、企業のマネジメントレイヤーを巻き込んだ組織型協働について検討する必要がある。
- ・本学は地域に貢献する取組を従来以上に求められる。ベースとなる研究水準の維持と立地を考慮した独自性を伸ばすことが、日本全国、あるいは海外からの評価につながり、共同研究の大型化につながる。

3) 地域を意識した共同研究強化

- ・道内大学等との連携をより強化する必要がある。また、地域金融機関（地方銀行、信用金庫）とのより効果的な連携を検討し、道内企業との接点を拡大すべきである。
- ・国・地方自治体や圏内企業との連携も重要であり、共同研究金額の多寡だけに留意することなく、地域貢献（地域経済活性化、高度技術人事育成）を重要視すべきである。

4) 企業へのアプローチの強化

- ・民間企業へのアピールの視点からは学科や技術分野の強化は言うまでもなく、戦略的な人材確保、そのための外部有識者による学内意識向上の諸施策立案と実行が必要である。また他の組織との協力関係強化に向け、道内他大学、研究所とのコラボレーションをより可視化・アピールする必要がある。
- ・民間企業へのアプローチには、客員教授待遇での現役研究者へのオファーも視野に入れるべきである。

5) 基盤強化／広報強化

- ・外部資金導入にあたり広報活動は重要な要素である。「一人のスーパースターを作りあげる」、「業界ニュースでトップになるプロジェクトを立ち上げる」などの他、「相対的にレベルの高いメンバーがそろっている」、「OBOGの活躍が社会貢献している」、「大学に旧体質が見られない」、等高評価される客観的な基準をクリアしていく戦略も重要である。
- ・他大学との単位相互認証制度などの活用による教育力のアピールを提案する。
- ・大学広報活動の一環として、OBOGとのかかわりをよりアピールし受験生の将来像を具体的に見せることが重要と判断する。

Ⅱ 外部評価ワーキンググループ委員による評価結果

1. 共同研究実績に対する所見

【全体的傾向 件数・金額の総額、推移】

- 1) 国立大学改革プランに基づく第2期中期目標期間（平成22～27年度）6年間における共同研究の受入れは、総数484件、金額約5億3300万円である。毎年度80件、8,800万円を超える外部資金を共同研究によって導入している。国立大学法人運営費交付金が縮小傾向にある現在、貴重な自己収入財源であり評価できる。
- 2) 他大学との比較という観点ではなく、規模的なことから一般論として共同研究件数の推移、学科別の構成、業種等を見ても、健闘していることが伺える。
- 3) 共同研究件数はここ4年間（平成24～27年度（評価対象外））順調に増加している。これは社会連携推進センターの地道な活動等による結果と考えられる。ただし、平成26年度はピークである平成19年度の99件より13%減の86件であり、まだまだ回復とは言いがたい。
- 4) 第2期中期目標期間における共同研究の受入れ実績は、第1期中期目標期間（平成16～21年度）と比較して件数で約10%、金額で約17%の減になる。共同研究は外的影響を受けやすく受入れの増減に一喜一憂する必要はないが、重要な自己収入財源であるとの観点から、その要因を分析して適切に対処することが求められる。

【一件当たり金額】

- 平成26年度の共同研究の1件当たりの金額は1,007千円で、平成21年度の1,212千円より大幅に減少している。今後、本学に求められるのは研究成果の社会実装（事業化）であり、この金額では多くの社会実装を生むのは難しい。また、1件あたりの金額の減少傾向は気になる。地域別、業種別の分析が必要である。

【内訳 研究者所属学科】

- 共同研究の学科別受入れ件数の割合は、今回の調査で社会環境工学科が33%と最も多く、次いで電気電子工学科15%、マテリアル工学科11%、バイオ環境化学科11%、その他である。前回の平成25年の調査（平成18～22年度対象）で15%、前々回の平成19年の調査（平成13～17年度対象）で18%を占め、社会環境工学科に次いでいた機械工学科が10%と低調である。要因の分析と適切な対処が求められる。

【内訳 きっかけ】

- 共同研究開始のきっかけは、企業対象のアンケート調査によると「独自に教員と連絡をとる」が80%以上と最多である。この傾向はこれまでの調査でも同様であり、平成19年は68%、平成25年は73%であった（過去の調査では受託研究を含む）。共同研究では企業と教員の信頼関係が最重要ではあるが、継続性に問題がある。共同研究による外部資金の導入が今後ますます重要度を増すとの観点から、効果的かつ持続的なきっかけづくりを組織的に目指す必要がある。

【内訳 パートナの種別／地域別】

- 1) 共同研究相手先の民間企業の68%が道外企業であることは、本学の研究水準の高さを示している。圏内企業との連携による地域経済の活性化は重要であるが、いたずらに

圏内企業のニーズを追うのではなく、常に研究水準の維持と本学の独自性の発揮に留意する必要がある。また、国や地方自治体等との共同研究の多さは本学の特徴であり、社会貢献、地域貢献の視点から高く評価できる。

- 2) 道内企業の比率は15%で圏内企業の17%を下回る。上記の通り、道外企業からの評価が高いことを考えるとやや低すぎる感は否めない。
- 3) 北海道という地域特殊性だけでアピールすることには限界があり、インフラを含む根本的な解決のためには北見工大＝北見在住の大学ということではなく、広く北海道地区における学問の最高学府のイメージ戦略と同時に、北海道・北見市と協力して企業誘致を推進する機能が問われているように感じる。

【内訳 分野／地域性】

- 北見工大の場合には、特にその地域性が最大の特徴であることから業種などの比較においては清掃や建設、次いで情報、インフラ基盤という分野に特化する傾向があることは当然であり、ニーズとシーズと地域性の密着度合にもかかる傾向が現れることには異論は無い。

【関連管理、リスク管理】

- 外部資金導入にあたっては成果の配分から始まり、技術の権利関係の明確化、さらには民間企業との知的財産の活用方法などの法律問題も関連してくるので、こういった周辺の分野への問題意識も十分に共有されていると評価する。

2. 外部資金導入の視点からの大学に対する提言

【共同研究の促進】

- 1) 共同研究では、研究室所属の学生（院生を含む）が相手先の了解のもとに、必要であればNDA（秘密保持契約）を結んで参加し、意見交換することも稀ではない。学生にとって企業関係者との交流は得難い経験であり、コミュニケーション能力を養う場にもなる。このように共同研究は教育面での意義も大きい。例えばテーマを提示した共同研究の公募など、新しい共同研究の進め方についても検討する必要がある 2 F 2
- 2) 共同研究は、外部資金導入および研究手段としての2つの面がある。実用化を目指す研究では最も効果的な手段となり、その成果は企業、教員、大学さらには社会に多大な果実をもたらすことが期待できる。共同研究では進め方や成果の取扱いの制限、守秘義務を負うなどの課題はあるが、本多光太郎の「産業は研究の道場なり」の名言もあり、それに増すメリットがある。件数や金額に一喜一憂すべきではないが、常に高みを目指すことが必要である。共同研究に馴染まない分野はあるとしても、意欲を喚起するインセンティブの拡大が求められる。

【共同研究の大型化】

- 1) 資料に添付の研究テーマ一覧からは、共同研究が複数の教員・学科にまたがるものかは特定できない。過去の実績では複数の教員・学科にまたがる例は非常に少なく、今回の調査でもごく少数と推測される。複数分野・領域にまたがる研究は今後の拡大を期待でき、そのための体制作りが必要である。科学研究費補助金においても従来の理工系、人文社会系および生物系の内、2つ以上の系にまたがるものを総合系と規定して平成25年度から公募している。
- 2) 共同研究を契機に企業と大学教員がコンソーシアムを形成し、各省庁や研究支援機関等の公募事業に応募して数千万円単位の研究補助金を獲得した例はこれまでも多くある。教員は公募事業に関する情報には必ずしも明るくないので、社会連携推進センターをはじめオホーツク産学官融合センター、独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道北見オフィス、北海道知的財産情報センター北見サテライト等が連携して情報を提供、支援する必要がある。
- 3) 共同研究の大型化は、従来の大学研究者個人対企業研究部門では進まない。近年、旧帝国大学系の総合大学は、大学と企業のマネジメントレイヤーを巻き込んだ、組織型協働を推進している。これは研究成果の社会実装を目指すもので、必然的にゴールミッションを共有し、双方がリスクを抱える大型共同研究である。本学においても、このような組織型協働について検討する必要がある。
- 4) 今後、本学は地域に貢献する取組を従来以上に求められるが、ベースはやはり研究力の維持、向上である。この研究水準の維持と日本最北（日本最寒冷）の立地を考慮した独自性を伸ばすことが、日本全国、あるいは海外からの評価につながり、共同研究の大型化につながる。

【地域を意識した共同研究強化】

- 1) 社会連携推進センターの活動は高く評価するが、これだけでは共同研究の間口拡大にはつながりづらい。従来から、道内大学等との連携は行っているが、より強化する必要がある。また、共同研究先発掘の手段として、地域金融機関（地方銀行、信用金庫）との連携内容を見直し（従来は、実効性が高い連携はあまり無かったのではないかと、

より効果的な内容を検討すべきである。これによって、道内企業との接点拡大が見込まれる。

- 2) 組織型協働は必要であるが、一方で国・地方自治体や圏内企業との連携も重要であることは当然である。共同研究金額の多寡だけに留意することなく、地域貢献（地域経済活性化、高度技術人事育成）の取り組みとして重要視すべきである。

【企業へのアプローチの強化】

- 1) まず民間企業へのアピールと言う広い視点からは、いくつかの分野で強化が求められる。
 - ①学科や技術分野の強化は言うまでもなく、人材確保のための戦略策定。他大学からの引き抜き、民間企業における研究者のヘッドハント、時代先読みの戦略作成のための外部有識者による学内意識向上の諸施策の立案と実行。
 - ②他の組織との協力関係の強化。道内他大学、研究所とのコラボを目に見える形でもっとアピールできないかという検討。
- 2) 民間企業へのアプローチの場合には、客員教授待遇での現役研究者へのオファーも視野に入れてほしい。企業は社員のダブルジョブ（兼業）は禁止する傾向があるが、研究を活かすという観点からの大学研究職への非常勤での関与については肯定的な企業は多いと判断する。

【基盤強化／広報強化戦略】

- 1) 外部資金導入の際に重要な要素である大学の広報活動について：

一般的な組織のPR理論についてはいろいろな意見があるが、費用対効果で見た場合には、一人のスーパースターを作りあげる、或いは業界ニュースでトップになるプロジェクトを立ち上げるという戦略もあるが、その一方で相対的にレベルの高いメンバーがそろっている、OBOGの活躍が社会貢献している、大学に旧体質が見られない、等高評価される客観的な基準をクリアしていく戦略もある。

前者の戦略としては秋田国際教養大の例が参考になるかもしれない。ここは文系ですが、全講義英語、全員留学、全員宿舎というゼロから始めた大学でなくてはできないことがいろいろあるが、学ぶ点は数多くあると思う。短期間で東大に次ぐ評価を得たということもそうだが、文系の明治以降の鬱積した縦型の序列に一石を投じるためにはしなくてはいけないことがあったということであろう。今後の評価も気になるが、短期での改革には有効な手法であった。中長期的に見ての評価については時期尚早だが、私は一定の効果は間違いなくあったと判断する。それは大学学部教育にける教養科目の充実という点、並びに専門教育は大学院という振分である。
- 2) 工業大学のカリキュラムだけでは広い知識を習得するのが難しいということであれば、他大学との単位相互認証と言う制度などの活用できないか提案申し上げる。以下の掲げるグロービスは現在では日本国のMBAの大学としては認知され、その講義内容もよくメディアが取り上げている。院生であれば重要な科目も配備されており、相互認証の検討をお願いする次第である。同校のオンラインでの科目履修に関しては以下に情報がある。（参考URL <http://mba.globis.ac.jp/online/tanka.html>）
- 3) 大学広報活動の一環として、OBOGとのかかわりをもっとアピールしていただきたい。受験生の将来像を具体的に見ていただくことは重要かと判断する。

例：桜美林大学の例としてはこういうHPの活用：

（参考URL <http://plus.obirin.ac.jp/series/jobstory18>）

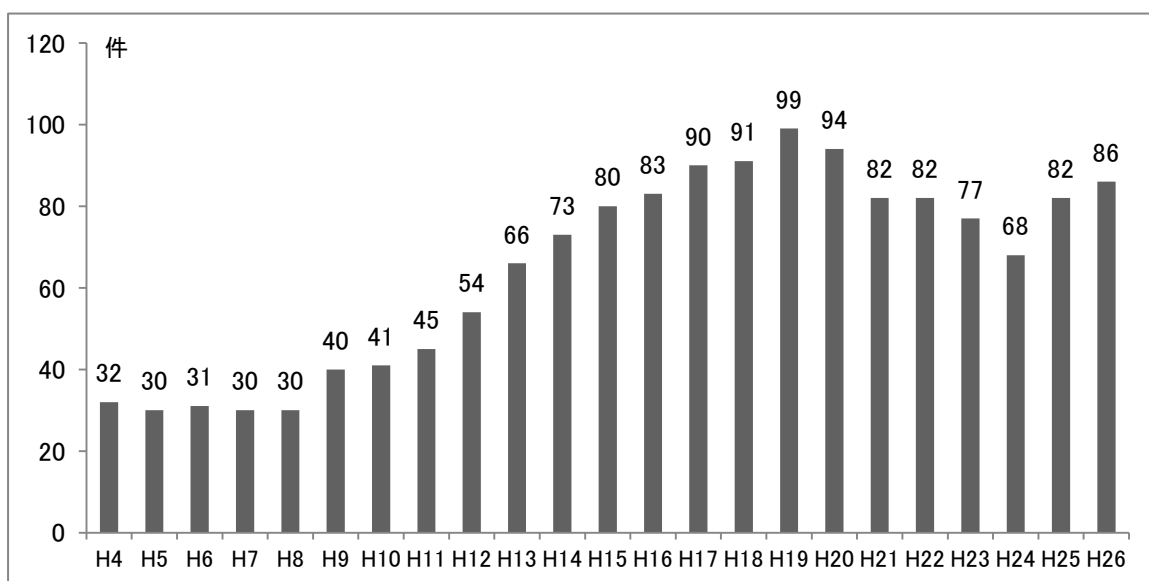
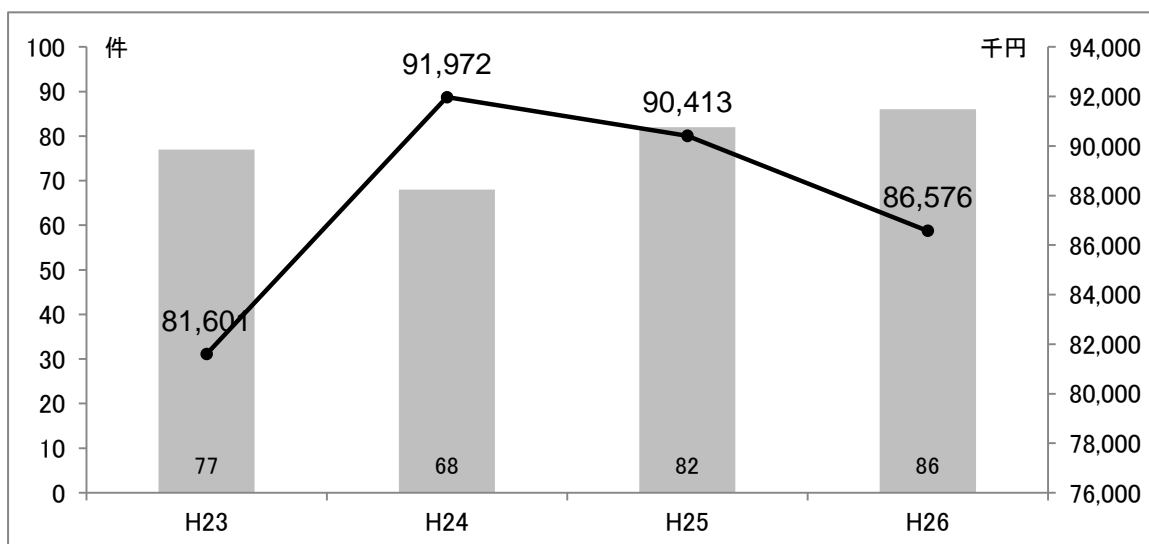
1 共同研究の状況からみた北見工業大学の特徴

1. 1 共同研究の実績

(1) 共同研究件数

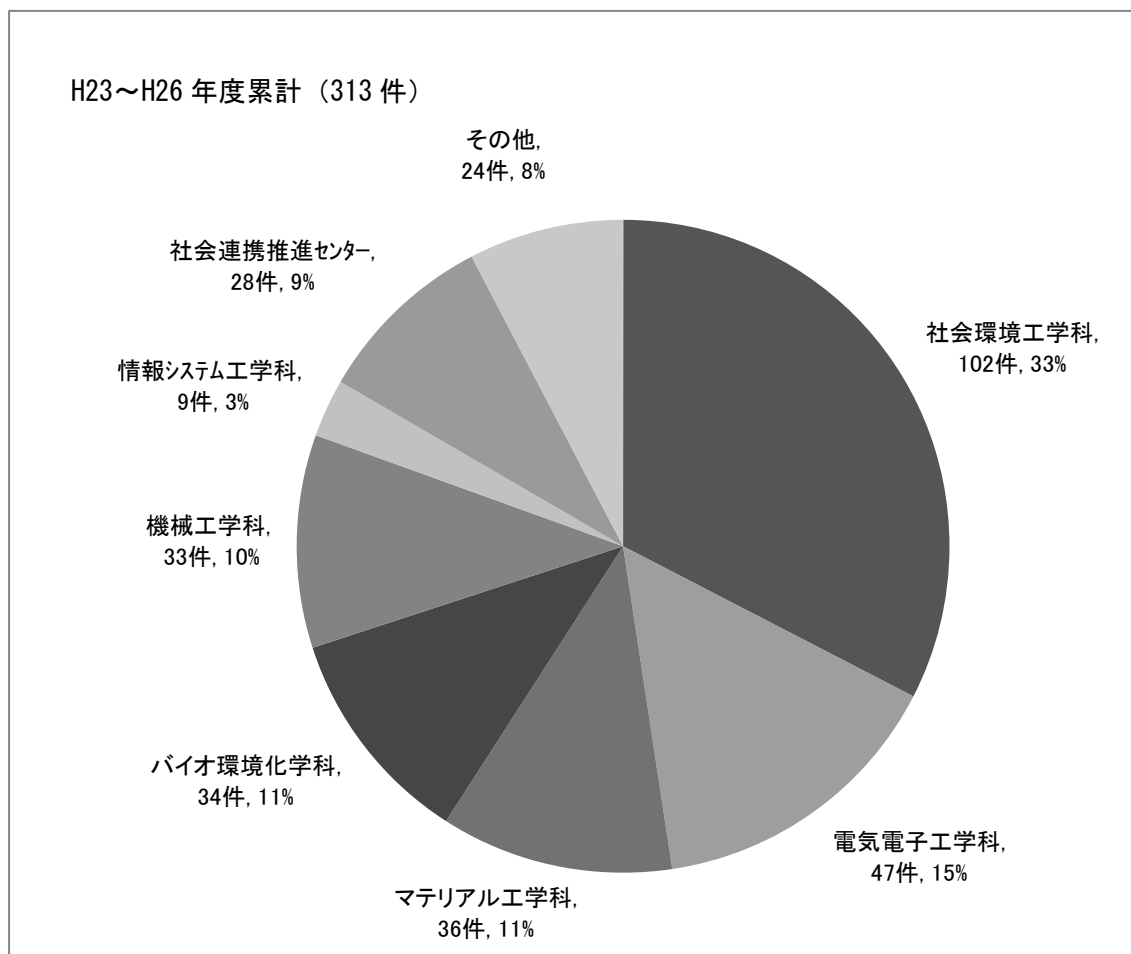
・北見工業大学における平成26年度の共同研究の件数は86件であり、社会連携推進センター（旧地域共同研究センター 以下「CRC」という）開設以来着実に増加を続け、平成19年度には過去最高の99件になった。その後は減少傾向にあったものの、平成24年度の68件を境に、共同研究件数は回復基調にある。

図表1. 1-1 共同研究件数の推移



・平成23年度から平成26年度の4年間に実施した件数について学科別の構成をみると、社会環境工学科が33%と最も多く、次いで、電気電子工学科・マテリアル工学科・バイオ環境化学科と続いており、これら4つの学科で全体の7割近くを占めている。(図表1. 1-2)

図表1. 1-2 北見工大の共同研究の学科別構成



(2) 共同研究の相手機関

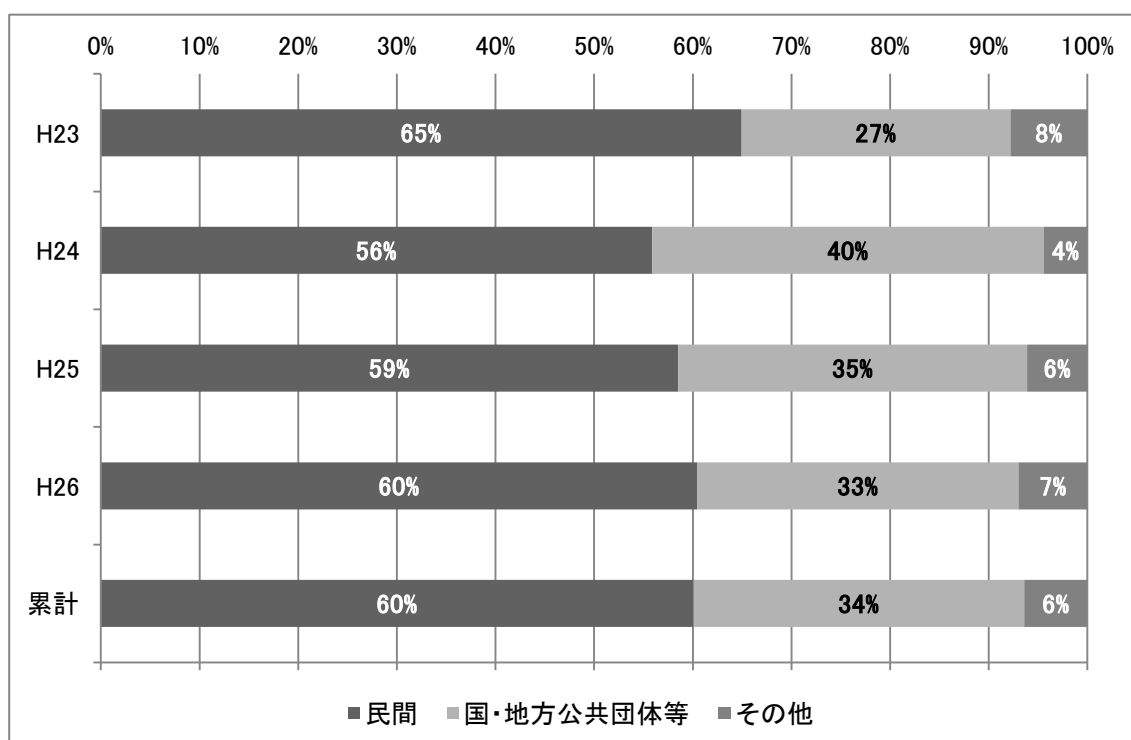
・共同研究の相手機関を「民間」、「国等の行政機関」、「その他」の3つの区分に分類して整理した。(図表1. 1-3)

・平成23年度から平成26年度までの4カ年の件数構成は、民間が60%、行政機関34%、その他が6%で推移しているが、平成23年に65%を占めていた民間機関が減少傾向にあり行政機関の割合が増えている。

・民間のうち業種別では、製造業が26%、建設業が13%であり、この2種の業種で全体の4割近くを占めている。

・このほか、情報通信業、サービス業が5%、電気・ガス・水道業がそれぞれ4%となっている。

図表 1. 1-3 共同研究の相手機関別構成



業種		件数	構成比
民間	水産・農林業	3	1.0%
	鉱業	0	0.0%
	建設業	40	12.8%
	製造業	81	25.9%
	電気・ガス・水道業	13	4.2%
	運輸	2	0.6%
	情報通信業	16	5.1%
	卸売り・小売業	3	1.0%
	金融・保険業	6	1.9%
	医療・福祉	8	2.6%
	サービス業	16	5.1%
	国・地公体・独法等	105	33.4%
	その他	20	6.4%
	計	313	100.0%

1. 2 ニーズからみた研究の特性

(1) 相手機関の所在（研究ニーズの出所）

・共同研究にかかわるニーズの出所という観点から、相手機関の所在地別に整理した(図表1. 2-1)。所在の区分は以下のとおりであり、出先事業所の場合は、その機関の本社・本部等の所在地とした。

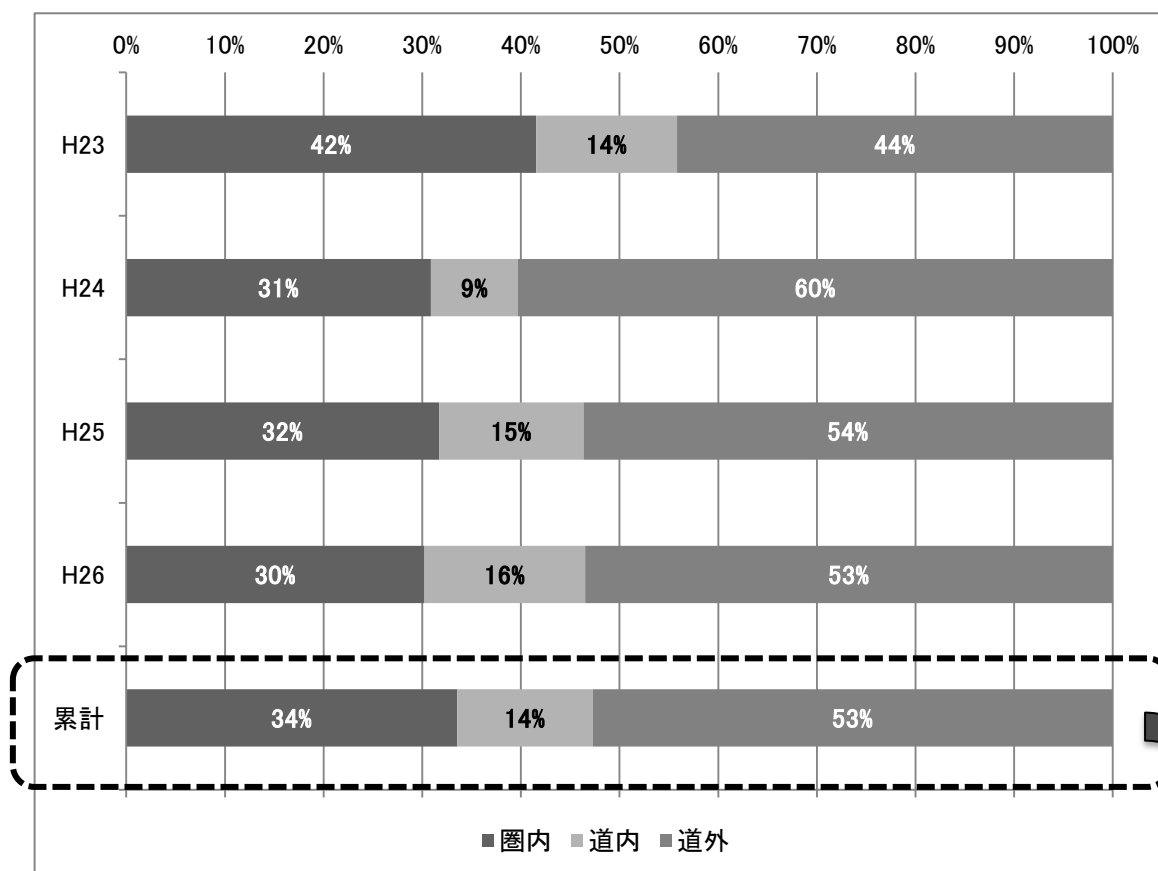
①	オホーツク圏内	→	「圏内」と表記
②	オホーツク圏内以外の北海道内	→	「道内」と表記
③	北海道外	→	「道外」と表記

・過去4カ年の件数構成は、オホーツク圏内が30～42%、道内が9～16%、道外が44～60%となっている。4カ年の累計では、オホーツク圏内が34%、道内が14%、道外が53%となっている。

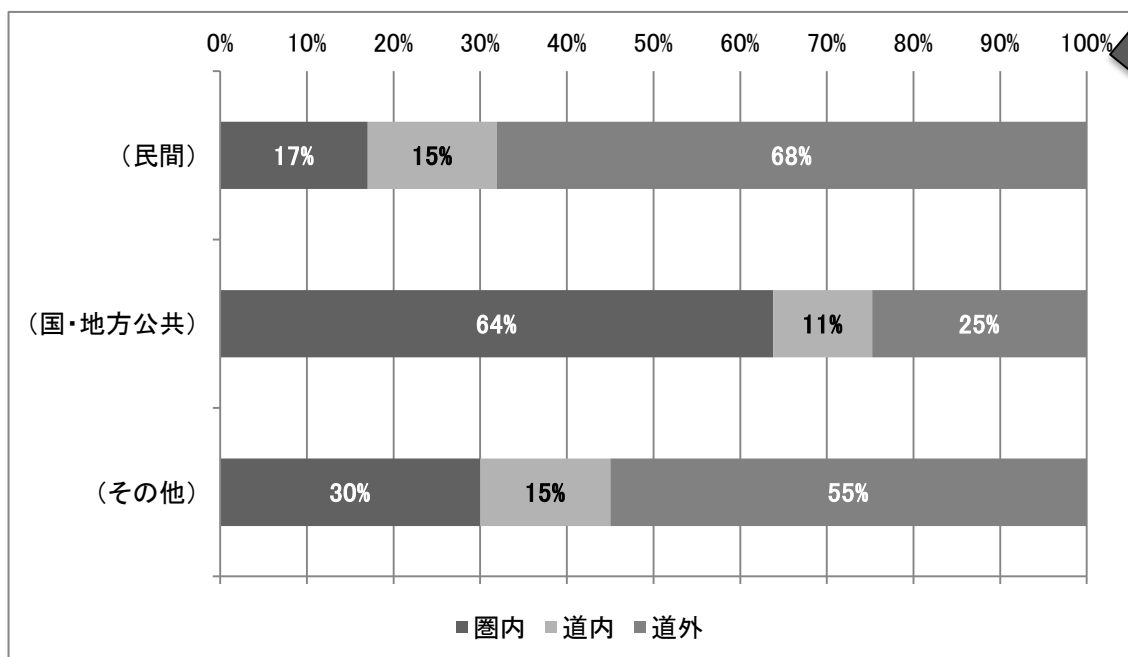
・過去4カ年の累計について、機関の属性別にみると、民間機関は、オホーツク圏内が17%、道内が15%、道外が68%と約7割を道外が占めている。一方、国・地方公共団体等の公的機関については、オホーツク圏内が60%以上を占めている。

・これらの状況から、北見工業大学は、道内だけでなく道外の民間企業からの研究ニーズに対応していることがわかる。加えて、オホーツク圏内の行政との深い関わりを確保していることがわかる。

図表 1. 2 - 1 共同研究の相手機関所在地別構成



(参考) 累計における相手機関別の所在地構成



(2) 研究素材の地域性

・研究テーマ・内容に係わる地域的な特殊性の有無という観点から、研究素材の地域性に別整理した(図表1. 2-2)。地域性の区分は以下のとおりである。

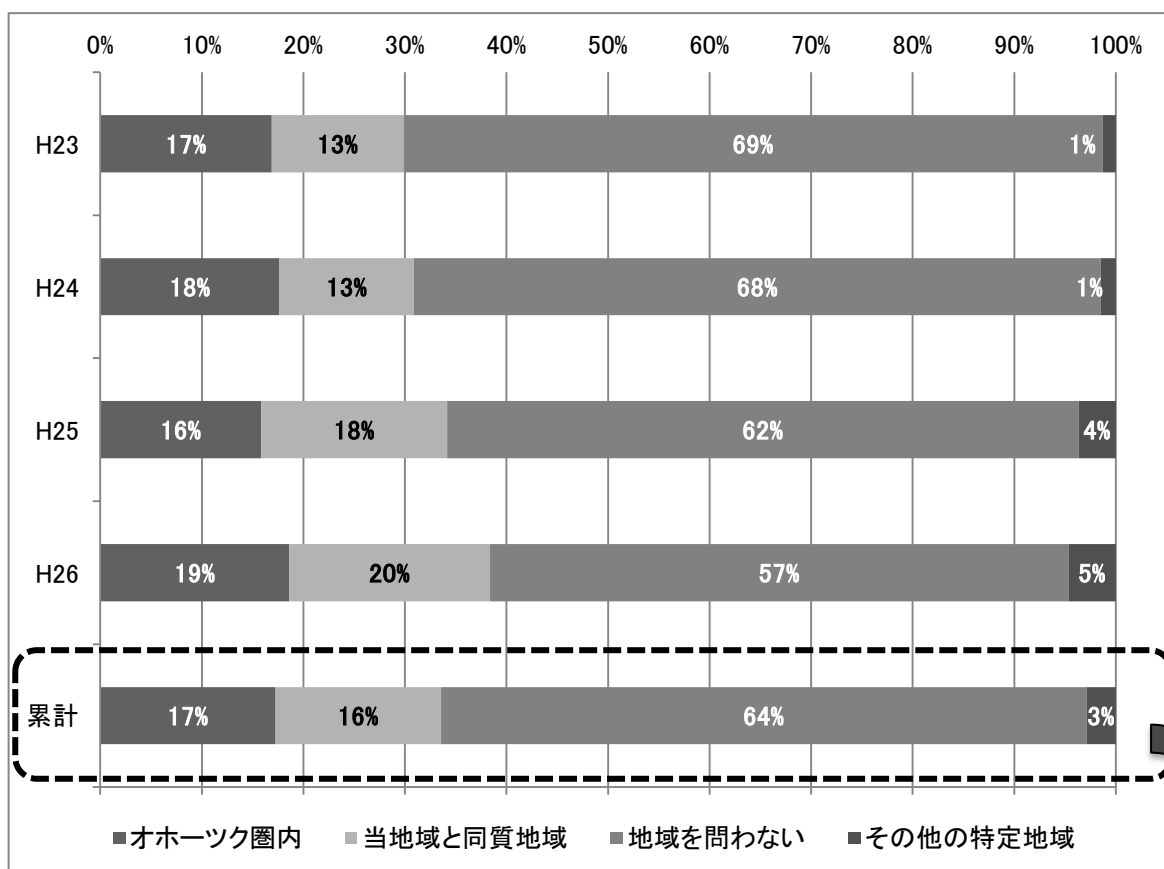
① オホーツク圏内	→ 「圏内」と表記
② オホーツク地域と同質地域	→ 「同質地域」と表記
③ 地域を問わない	→ 「問わない」と表記
④ その他の特定地域	→ 「他特定地域」と表記

・過去4カ年の件数構成は、オホーツク圏内およびオホーツク地域と同質地域が17%前後、地域性を問わないものが57~69%で推移しており、その他の特定地域の案件は極わずかしみられない。4カ年の累計では、オホーツク圏内が17%、オホーツク地域と同質地域が16%、地域性を問わないものが64%、その他の特定地域が3%となっている。

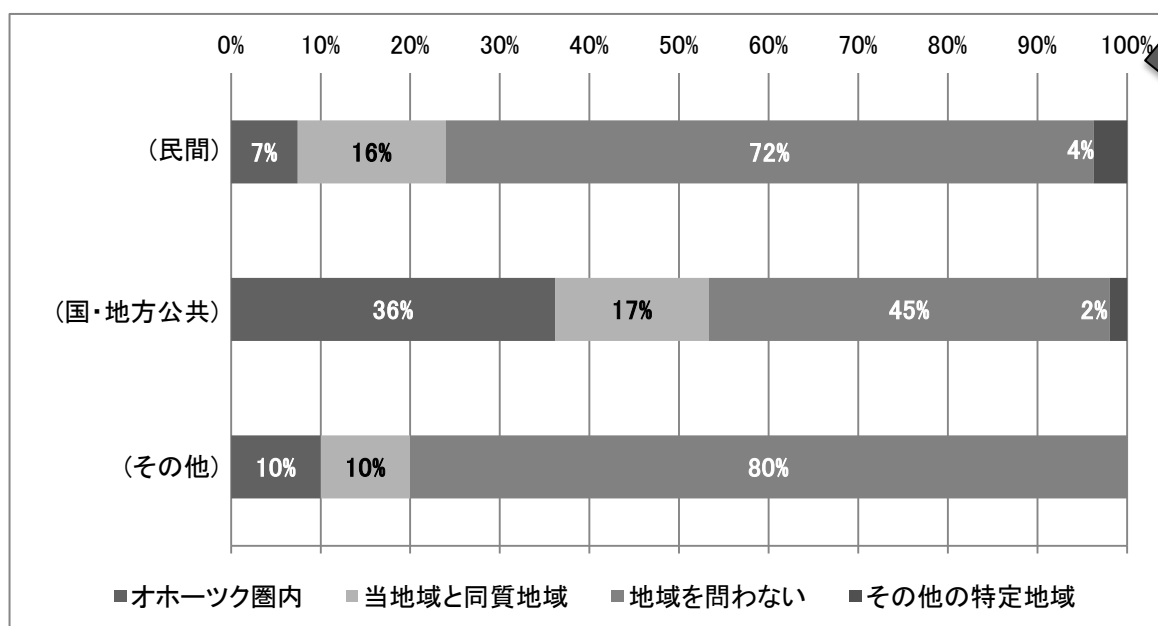
・これらの状況から、民間企業の案件については、先に示した相手機関の所在地の約70%が道外だが、研究素材の地域性の観点からみると、オホーツク圏内および同質地域に限られたものが約2割弱に比べ、地域的な特殊性を問わない研究素材が7割以上と、所在地分布と比例して、その成果や蓄積したノウハウの適用範囲の広がりがあると考えられる。

・また、過去4カ年の累計について、機関の属性別にみると、民間等は地域性を問わないものが72%と最も多く、次いで、オホーツク地域と同質地域が16%であり、オホーツク圏内は7%と少ない。一方、行政機関については、オホーツク圏内が36%を占め、次いで、同質地域が17%と続いており、民間等において地域性を問わない傾向が顕著となっていることがわかる。

図表 1. 2-2 研究素材の地域性別構成



(参考) 累計における相手機関別の地域性別構成



(3) 相手機関の事業範囲

・共同研究の相手機関がどのようなエリアであるかという観点から、相手機関の所在地別に整理した(図表1. 2-3)。所在の区分は以下のとおりであり、出先事業所の場合は、その機関の本社・本部等の所在地とした。

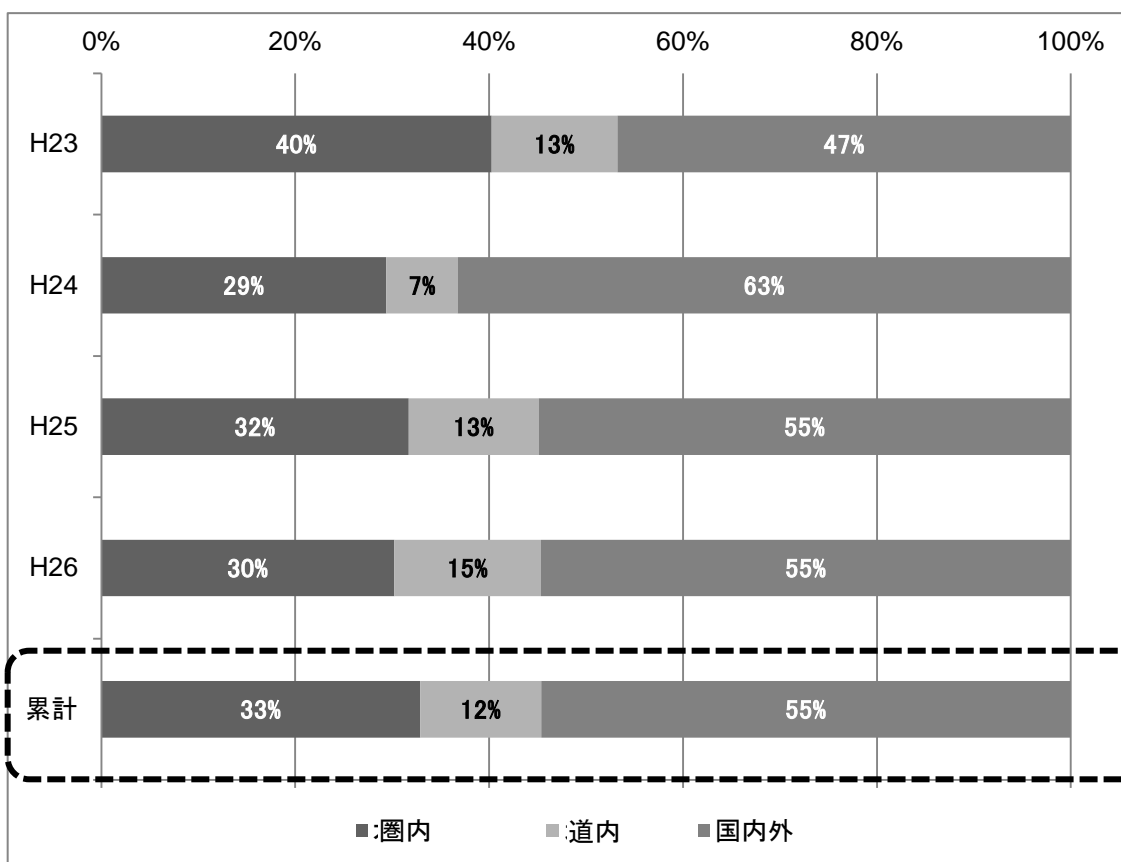
①オホーツク圏内	→ 「圏内」と表記
②オホーツク圏内以外の北海道内	→ 「道内」と表記
③北海道外及び国外	→ 「国内外」と表記

・過去4ヶ年の件数構成は、オホーツク圏内が35%前後、道内が約10%前後、国内外が47%~63%で推移している。4ヶ年の累計では、オホーツク圏内が33%、道内が12%、国内外が55%となっている。

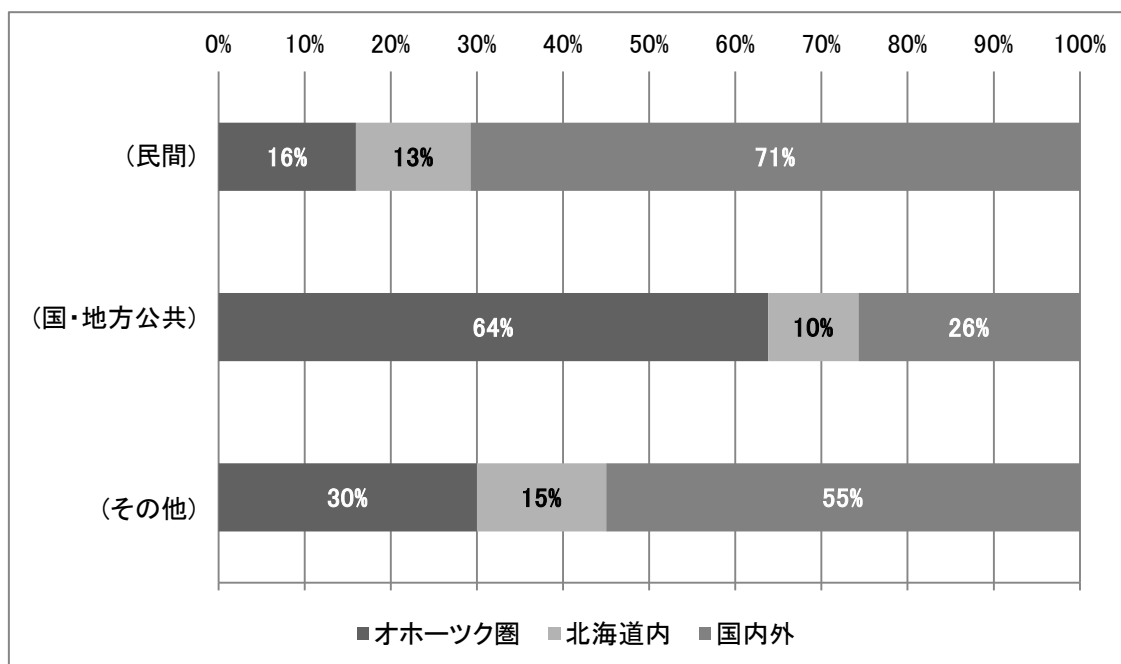
・過去4ヶ年の累計について、機関の属性別にみると、民間等については、圏内が16%、道内が13%、国内外が71%となっている。所在地別でも同様に国内外の企業の7割近くが道外で占めており、各企業の事業範囲という観点からみても圏内及び道内を範囲とする企業との研究は少なく、国内外を範囲とする企業との研究が約7割近くを占めている。

・なお、相手機関が行政については、その性格上、事業範囲についても先に示した所在地別構成(図表1. 2-1)とほぼ同じとなる。

図表 1. 2-3 共同研究の相手機関の事業範囲別構成



(参考) 累計における相手機関別の事業範囲構成



1. 3 技術面からみた研究

(1) 研究の対象（目標）

・研究成果の対象（目標）がどのような方向にあるのか、といった観点から、研究の目標別に整理した（図表1. 3-1）。目標の表記は以下のとおりである。

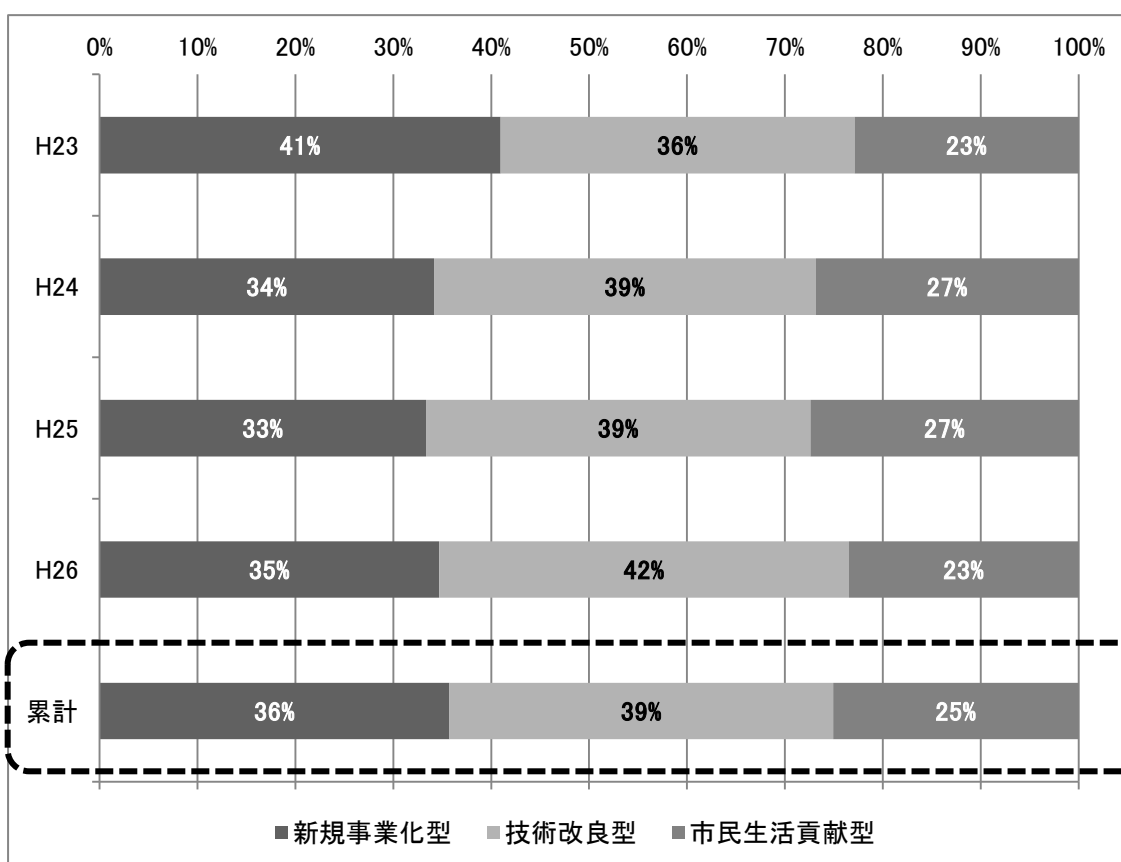
- ① 新規事業化型→「新規事業型」と表記
：これまでにない新たな事業分野・製品分野を開拓するもの
- ② 技術改良型・市場（維持）獲得型→「技術改良型」と表記
：これまでの事業分野・製品分野の中で、技術をさらに改良・導入して、市場の維持・獲得を図るもの
- ③ 市民生活貢献型→「生活貢献型」と表記
：社会環境・インフラ等を対象として、よりよい生活基盤の形成に寄与するもの

・過去4ヶ年の件数構成をみると、新規事業型が33～41%、技術改良型が36～42%、生活貢献型が約23～27%で推移している。4ヶ年の累計は、新規事業化型が36%、技術改良型が39%、生活貢献型が25%となっている。

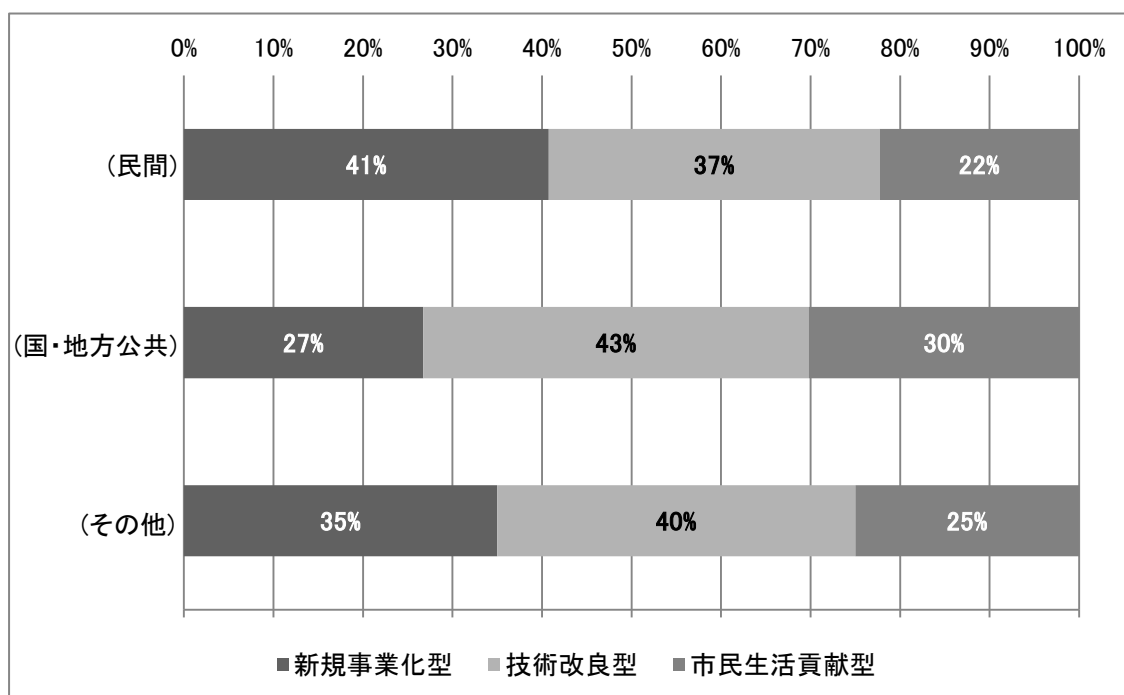
・相手機関が民間等の場合は、新規事業化型（41%）と技術改良型（37%）の割合が高く、成果目標が異なる企業の研究開発ニーズに対して柔軟に対応してきていることがわかる。

・国・地方公共団体等の行政機関については、住民の生活環境の基盤を支える役割を担うことから、生活貢献型の割合が民間と比べて高く、新規事業化型は低い傾向である。これらは、排水や排気の影響調査や水質や悪臭対策など生活改善に係わる技術開発である。

図表 1. 3 - 1 研究の対象（目標）



(参考) 累計における相手機関別の研究対象(目標)構成



(2) 研究の技術要素

・ここでは、本学のシーズとの関連が想定される8つの研究分野を設定し、4年間の313件の共同研究それぞれについて、該当すると判断される研究分野をあげた。

・その結果（図表1.3-2）について、相手機関が民間等についてみると、社会基盤の割合が35%と最も高く、次いでライフサイエンス・情報通信・環境が11%と続いている。

・これらに次いで、エネルギーが10%、ナノテクノロジー・材料および製造技術が7%と続いている。これらから、共同研究の分野は、地域産業の特徴である建設産業・農業関連産業など社会基盤のニーズに対応しつつ、本学の特徴である環境、エネルギー分野にも対応した広がりをみせている。

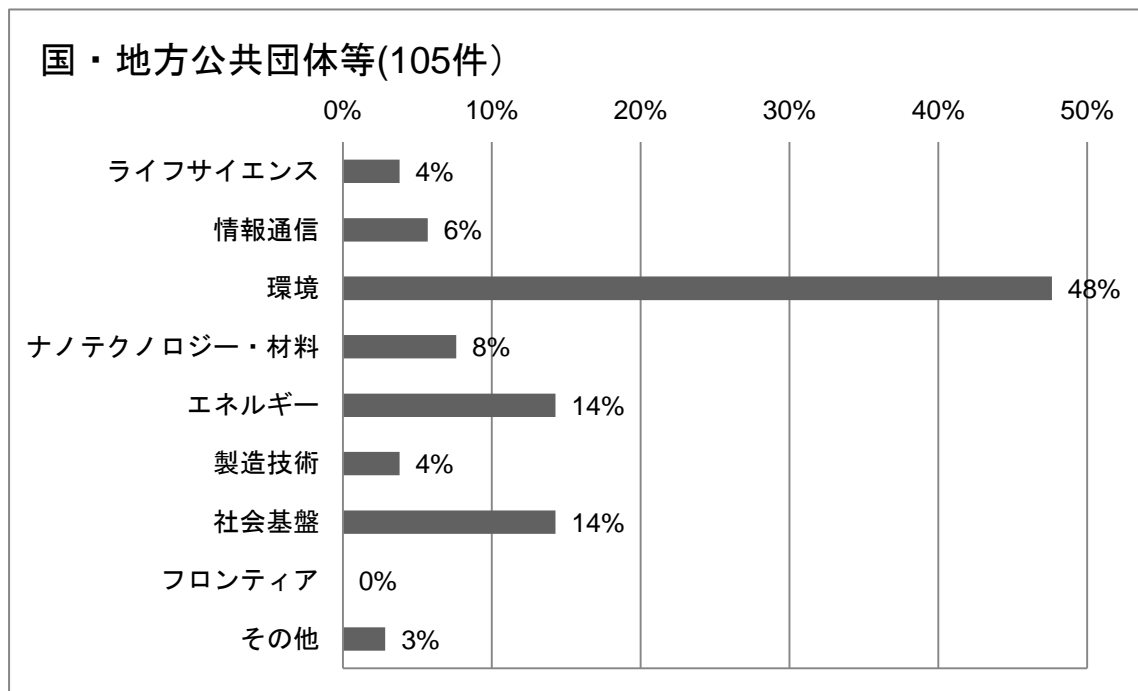
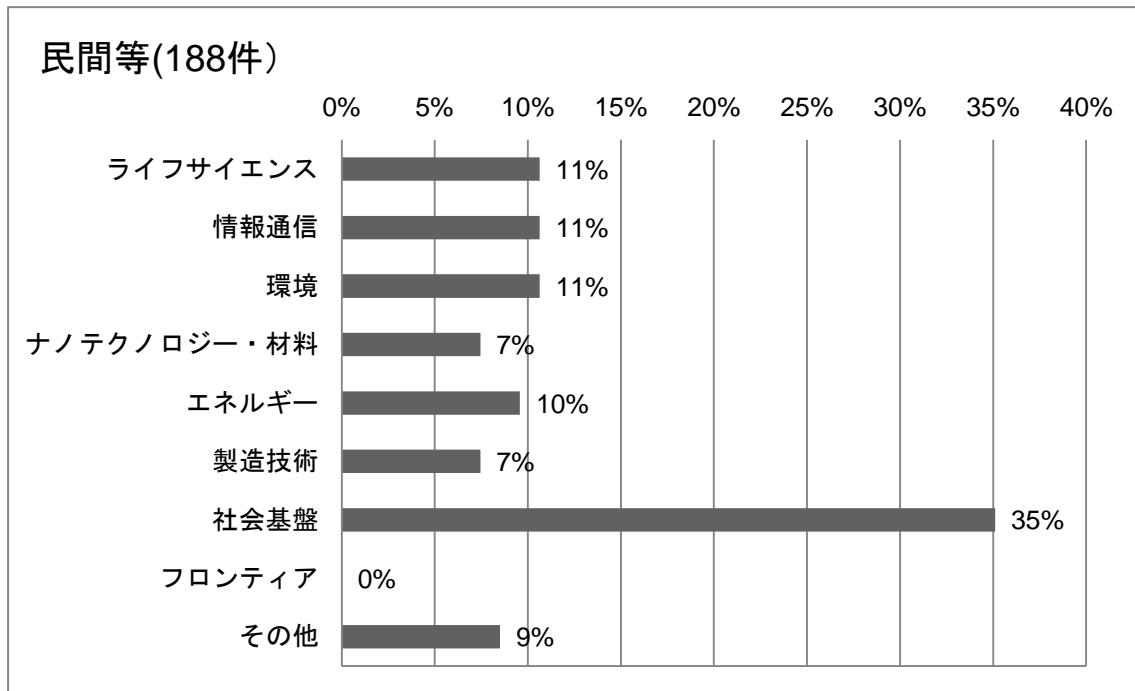
・行政機関についてみると、半数近くの研究が「環境」をキーワードに含んでおり、本学が地域の環境行政の分野において技術面から貢献していることがわかる。これらに付随してエネルギーと社会基盤が14%となっている。

・この研究分野を相手機関の所在地別にみると（図表1.3-3）、オホーツク圏内では、行政分の影響を受けて環境が50%と半数近くを占め、次いで社会基盤が15%、エネルギーが10%となっている。

・道内については、社会基盤が63%と最も多く、次いで環境が14%と続いており、本学が特色としている寒冷地研究分野への広がりがオホーツク圏内よりも広がっている。

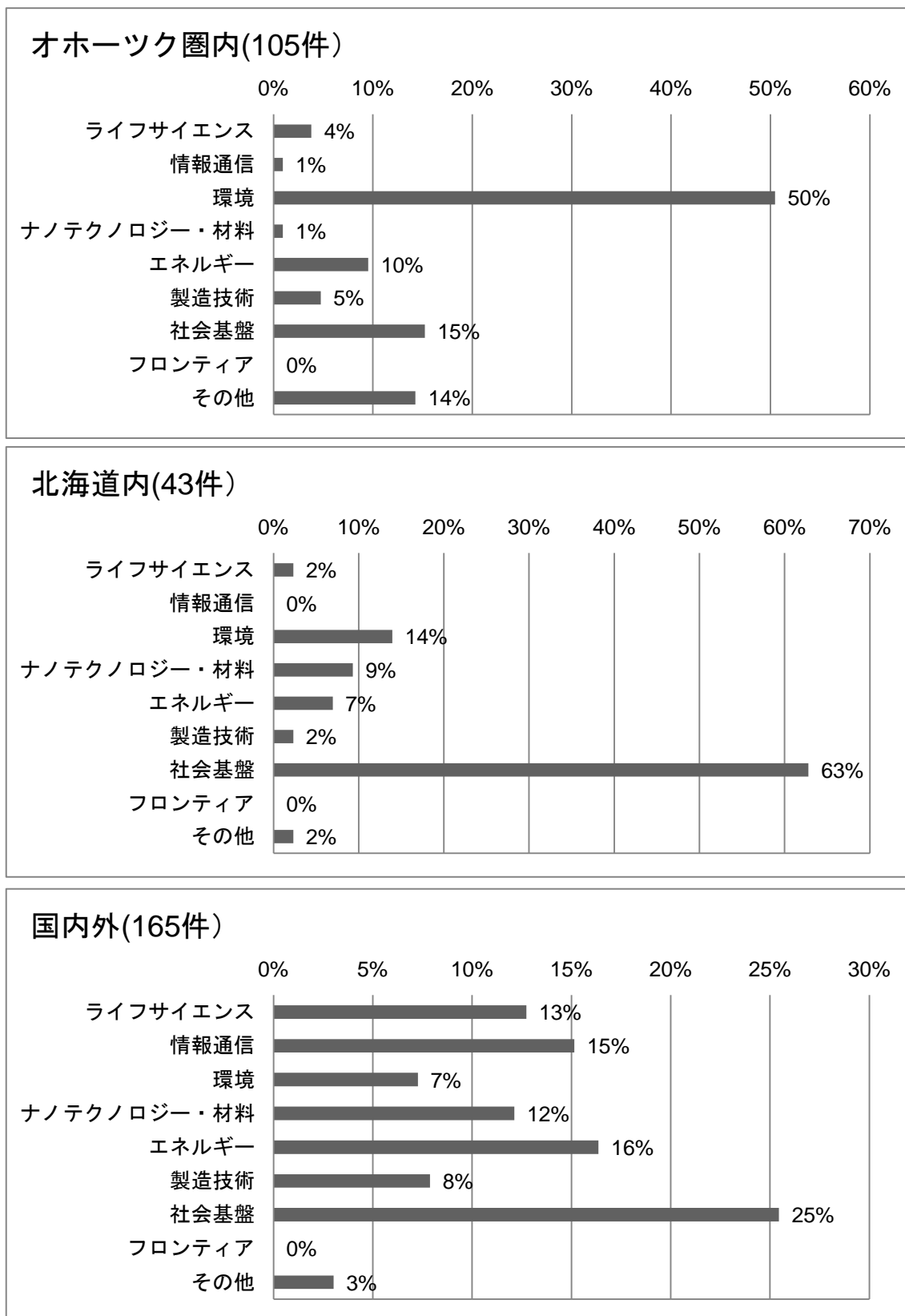
・道外についても社会基盤が25%、エネルギーが16%、情報通信が15%と割合が高いが、これら以外の研究分野についてもほぼ同率であり、道外企業の多様なニーズに対応していることがわかる。

図表 1. 3-2 共同研究の研究分野（機関の属性別）



※その他(20件)は除く

図表 1. 3-3 共同研究の研究分野（相手機関の所在地別）



2 アンケート調査の結果

2.1 調査対象と回答数

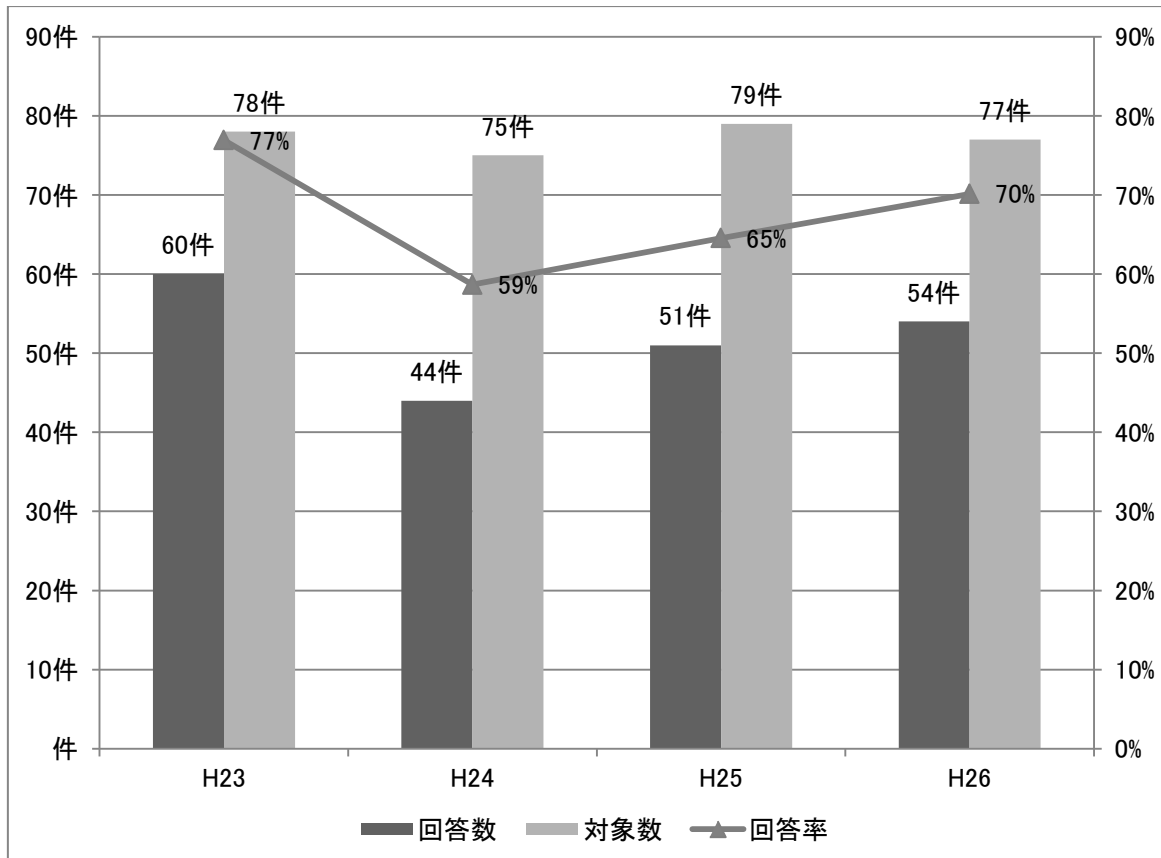
・平成23年度から平成26年度の4カ年における共同研究の実施相手先は112機関である。(これらの機関と313件の共同研究契約を締結) これらを対象として毎年度、郵送等によるアンケート調査を実施した。

・112機関のうち以下のとおり回答を得たが、ここ3年間の回収率は増加傾向にある。

・調査項目は以下のとおりである。

- ① 本学の研究内容を知るきっかけについて
- ② 共同研究の開始について
- ③ 共同研究における教員の対応の満足度
- ④ 共同研究の成果の満足度

図表2. 1-1 アンケート調査の回収数



2. 2 共同研究の成果について

(1) 共同研究成果の状況

・研究成果に係わる回答項目（選択肢）とその内容は以下のとおりであり、案件それぞれについて回答を得ている（結果は図表2. 2-1）。

- ① 起業化 : 新たに企業が生まれた
- ② 事業化 : 新たに商業ベースの事業が生まれた
- ③ 技術実用化 : 開発した技術が実用化され、利用された
- ④ 製品化 : 新製品、新商品が生まれた
- ⑤ 特許化 : 得た成果をもとに民間機関等がさらに開発を進めて特許を出願するなど、なんらかの形で特許化に寄与した
- ⑥ その他

・過去4ヶ年の成果を経年的にみると、ほとんどの年度の場合①～⑤の分類以外の「その他」が最も多く4割程度を占めているが、技術実用化が30%、製品化が15%、特許化が5%となっている。各年度ともに、なんらかの具体的な成果が認識された研究が一定程度あるとみられる。

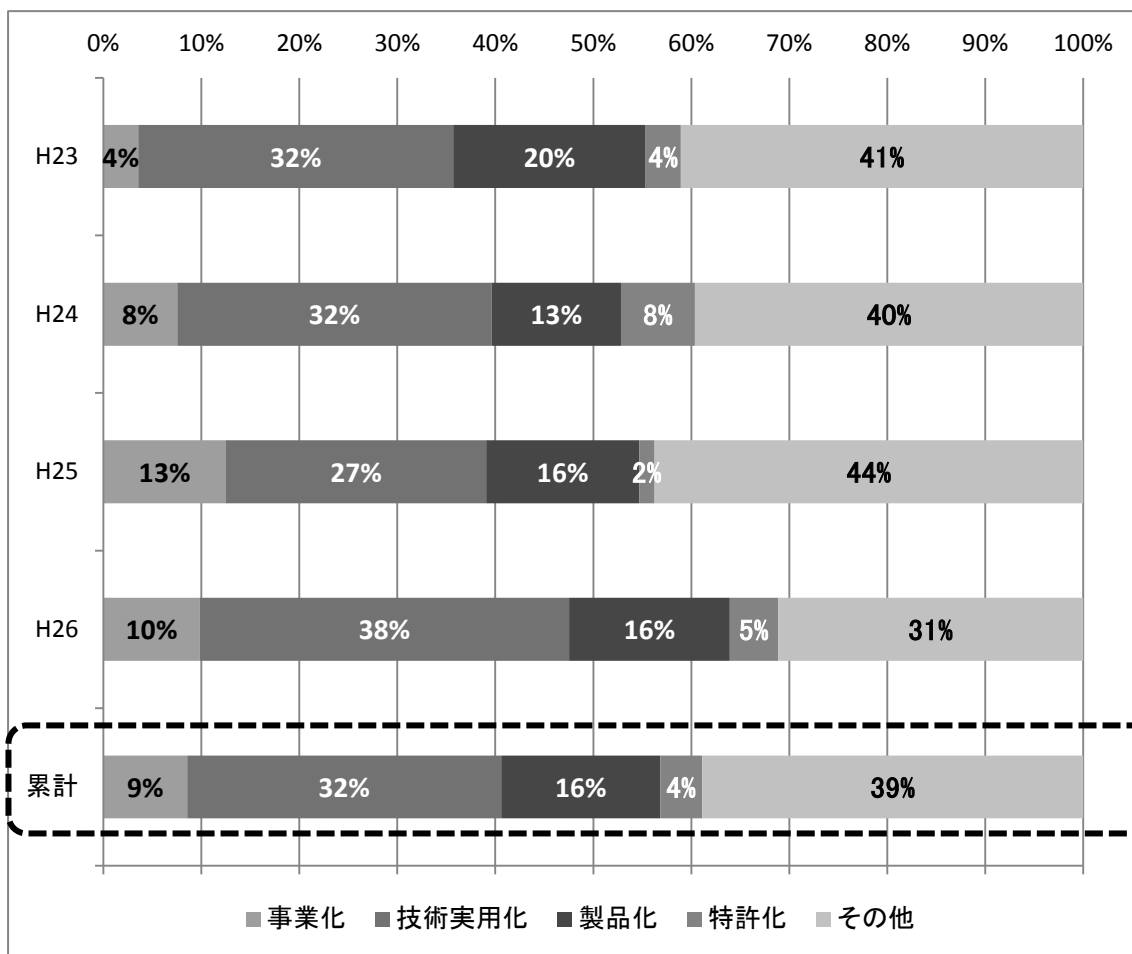
・過去4ヶ年の成果を累計でみると、順に、その他が39%、技術実用化が32%、製品化が16%、事業化が9%となっている。各研究成果の具体的な内容については、成果の項目ごとに図表2. 2-3～2. 2-7に整理した。

・相手機関が民間等（民間および研究機関等）の場合は、全体でみた場合と比べて「その他」の比率が若干下がるとともに、事業化及び製品化がやや伸びており、目に見える成果に至った割合がやや高くなっているといえる。

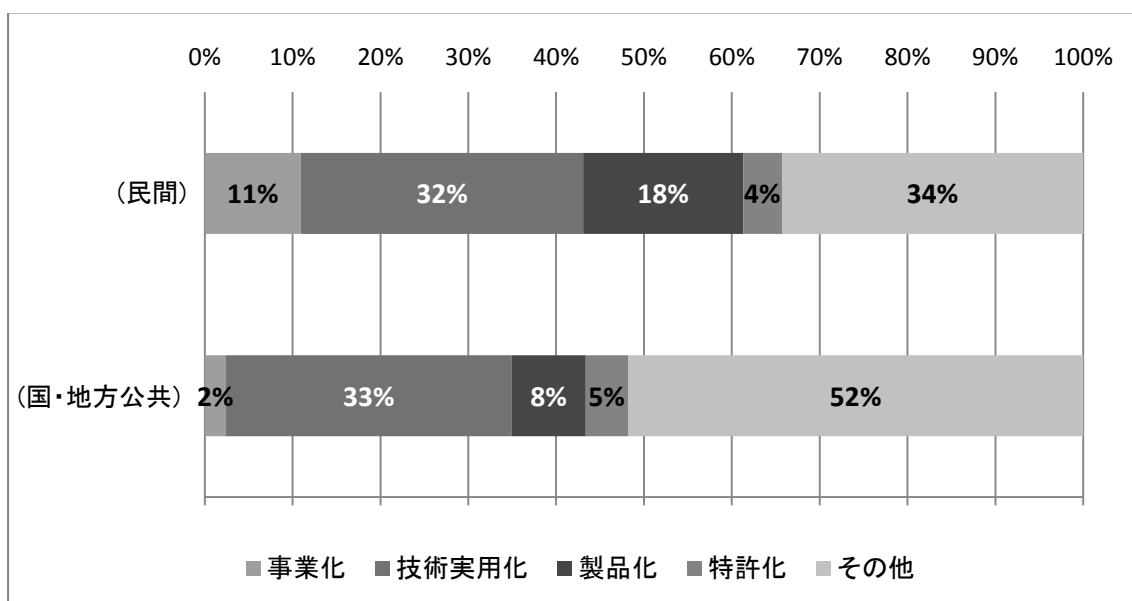
・また、「その他」の案件についても、基礎研究への寄与、技術的課題の解決、製品の問題解決、実証データの蓄積等の回答があり（図表2. 2-7、民間）、研究開発や事業の推進に効果があったとみられる。また、研究開発中の案件も多くみられ、今後の発展によっては、事業化など具体的な成果につながっていく可能性を有すると考えられる。

・行政については、研究の目的および対象の多くが地域環境の改善による市民生活への貢献を主体としていることから、その成果については「その他」に分類することとなったと推察できる。具体的な内容（図表2. 2-7、行政）からは、河川の水質管理や下水道管理等に活用されている状況がわかる。地域産業のみならず、生活環境の維持・改善にも貢献する地域密着型の研究成果が多いことも本学の特徴の1つといえる。

図表 2. 2-1 共同研究の成果



(参考) 累計における相手機関別の共同研究成果構成 ※その他の機関については、除く

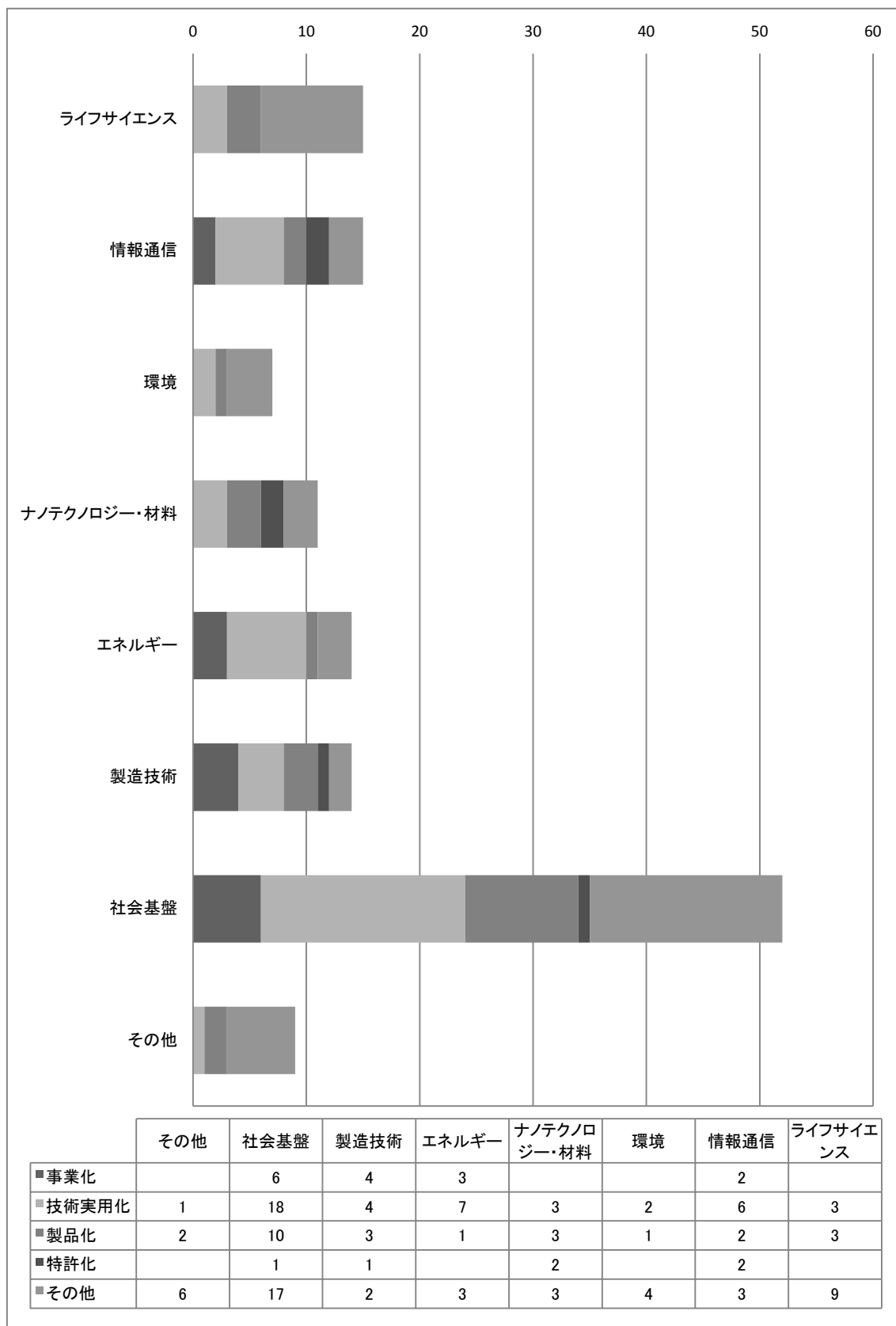


(2) 成果に至った研究の技術要素

・前述した具体的な成果に至った研究（民間等のみ）について、「1. 3」で検討した研究分野をもとに整理した結果が図表2. 2-2である。

・社会基盤については特に研究成果件数が多く、また、事業化から技術実用化、製品化まで幅広く成果を確認した案件が比較的多くみられる。

図表2. 2-2 共同研究の成果の研究分野(民間等のみ)



図表2. 2-3 研究成果の具体的内容(起業化および事業化)

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
製造業	24	籾殻ガス化におけるタールの挙動、評価をおこなった。この成果を受けてミャンマー国の精米所に多く普及している200kw籾殻ガス化炉の改良を行い、電化改善に寄与する。
	26	ジオセルとジオグリッドを用いた新たな補強土壁工法で凍上に対する性能評価を確認することができた。
建設業	24	耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
	25	耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
		耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の補強材の性能を実証的に確認した。
26	耐凍上性能を向上させた補強土工法の性能を実証的に確認した。	
情報通信業	26	海中高速通信に関し、将来の製品化、事業化に向けた基礎的な知見を得ることができた。
卸売り・小売業	26	複数の模擬電源、負荷装置を並列に制御し、出力する電力を安定化させるシミュレートシステムの基盤を確立できた。
サービス業	23	日本語文書分析手法の研究により現在の使用中の分析手法のバリエーションが増えより多角的に日本語文書の分析を行うことが可能となっている。
	26	共同研究参加企業の業務受注に成功(顧客からの技術力評価を受けた結果)した。
国・地公体・独法等	26	事業化に向けたトンネルの管理にかかる課題をクリアする必要がある。
その他	26	両面太陽電池の優位性等をデータを以って実証することが出来た結果、北海道を中心に両面太陽電池の拡販につながり、また、他企業との製品開発が促進された。

図表2. 2-4 研究成果の具体的内容(技術実用化)

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
建設業	23	バイオマス資源を活用した道路路面緑化技術、試験施工と経過観察記録、報告書作成、技術開発登録機関への認証登録など。
	24	機械インピーダンス法を用いた開水路の劣化診断技術が確立されれば、今後のコンクリート構造物の老朽化による社会インフラの維持管理に大きく貢献できる研究となる。
		高速道路の路面管理基準に適用した。
		耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
	25	耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の補強材の性能を実証的に確認した。		
建設業	25	NETIS登録をした。
		農業用水路の経年劣化に対する非破壊検査手法の確立に向けての第1歩となった。
	26	耐凍上性能を向上させた補強土工法の性能を実証的に確認した。
		この研究は道路の効率的なマネジメントを確立するために、長期計測が必要である。このことから、すぐに実用化することは難しが、無駄のない計画を立てる必要がある。北見工業大学と研究を共同で行うことにより、基本となるデータ取得および取得できたデータの解析方法について適切なアドバイスを頂き、スムーズに研究を進めることが出来ている。 製品の販売はこれからです。
製造業	23	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
		低電圧で動作するCMOSインバータを利用したオペアンプをADCに利用する。
		DMR法によるCNTのリチウムイオン電池への実用化 実際にはまだ商品化には至っていないが、今一步のところまで来ている。
		従来よりも安価な原料を使用し、従来品と同等の強度を持つ試作袋(肥料袋)を製造し、低温時における強度比較を行ったが、低温時における強度は試作袋の強度が従来品よりも劣る結果が得られ試作袋の製品化は見送る事となった。望む結果ではないものの明確な差が得られた為、今回得られたデータを元に改良を行い改めて試験を行いたい。
	24	白煙、臭気の評価法を活用し、商品(排気臭の少ないトラック等)力が向上した。
		記入者は実際に研究に携わっている者ではないので成果云々に言及するだけの能力を持ち合わせていません。どうかご了承ください。
		共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
25	共同研究の成果による路面測定技術と路面情報をもとに、車両開発への活用を推進です。	

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
製造業		系統連系モデル化シミュレータによる、インバータの開発を加速しています。
	25	設計に関する利点の数値化と理論的な裏付けとなりました。
		低温時の強度に優れたポリエチレン袋の選定を行うことが出来た。低温時の強度に優れたポリエチレン袋は現在製造している袋よりもコスト面にも優れた袋である為、現在切り替えの候補として提案中である。
		ジオセルとジオグリッドを用いた新たな補強土壁工法で、凍上に対する性能評価を確認することができた。
		新しい電磁場解析技術を立ち上げた。
	26	<p>ウインドファームの新たな出力制限方法を開発した。</p> <p>緊急車両に関する必要情報を集約し、GPSの位置情報や車両情報を携帯回線で本部へ伝達するシステムの試作機を完成、消防署での実証実験を通じて改良を進め、より有効性の高いシステムを構築した。</p> <p>廃プラガス化反応のメカニズムから、実用化に必要な高活性化のアイデアが生まれた。</p> <p>日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究において、日本人に適したブーツの開発に役立ち、現に上村愛子選手が2013シーズンのワールドカップでワールドチャンピオンになりました。</p>
製造業	26	極寒冷地にて発生するEngのPCVホース凍結問題に対し、水分量の把握と除湿システムの構築を目的に実施、継続研究中であるが、問題解決に向けた新たな知見が得られた。
		新しい電磁場解析技術を立ち上げた。
電気・ガス ・水道業	25	ポリマーがよいしと磁器がよいしの塩分付着特性と放電開始の相関性の把握ができた。
	26	<p>シリコンゴムの信頼性に関する研究を行い、基礎データを得た。</p> <p>現行システムの付属装置として、商品化を目指したいと考えております。</p>
情報通信業	23	機能性サンゴによる健食の原料開発ができた。
	26	光ファイバヒューズ現象のメカニズム解明、その抑制方法、製品化に向けた特許権利化等について、着実な成果が得られたと考えております。
サービス業	23	ガラス系機能皮膜の評価により新たな機能皮膜を開発することができた。
		橋梁維持補修設計業務の共同研究者(網走測量設計協会加盟企業)の受注を目標としている。
	24	粒子分散型MMC皮膜の評価により新しい機能性皮膜を開発することができた。
	26	共同研究参加企業の業務受注に成功(顧客からの技術力評価を受けた結果)した。
国・地公体 ・独法等		浄水処理における凝集剤注入の最適化によるPACの低減化の達成できた。
	23	今後、さらなる高効率な熱交換方式を検討するにあたって、蓄熱タンクの形状の選定などが必要であるとわかった。
		温泉廃熱回収システムは適切に機能しており、今後は園芸技術の専門家による実証が期待される。

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
国・地公体 ・独法等	23	BOD除去率は向上したが、今後は他の環境基準を満たすシステムの開発が必要となる。
	24	後凝集技術を応用し浄水中の微量粒子数の抑制を達成した。
		共同研究継続中につき成果は未完了である。
		改良したシステムにより、以前よりも高度な排水の浄化処理が行えるようになった。
	25	水道管周りの温度環境を調査することにより、適正な埋設深の把握をした。
		機械インピーダンス法による、コンクリート開水路の凍害診断技術を確立した。
		浄水処理の効率化による凝集剤使用量の低減。後PAC注入による効率的な浄水処理を実施した。
	26	積雪寒冷地である北見における、水道管の適切な埋設位置及び防寒方法を確立した。
		課題であった薬品使用量の低減化に新たな技術で達成できた。
		溶射ワイヤに光触媒を封入し、浄化作用のあるフィルターとしての実用化を目指すために、必要な知見と良好な実験結果を与えてくれました。
		コスト面、実用化へ向けた課題をクリアする必要がある。
		事業化に向けたトンネルの管理にかかる課題をクリアする必要がある。
凍上のメカニズムを実験により明らかにし、この原理を利用した大型土のうによる不良土の改良方法についての試験施工を行い、実用化の可能性を見いだした。		
その他	23	オホーツク地域におけるEV関連のインフラ整備に関する知見を得た。
	25	積雪状態(雪質)の変化を光学的に判別する、技術の確立(の途中である)。
	26	データ取得手法を生かした安定化機器の開発の目途が出来つつある=共同研究は続いているので。

図表2. 2-5 研究成果の具体的内容(製品化)

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
建設業	23	研究結果を基にNETIS登録を行った。
	24	耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
		NETIS登録を検討中である。
	25	耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の性能を実証的に確認した。
		耐凍上性能を向上させた補強土壁工法の補強材の性能を実証的に確認した。
		本共同研究は、平成26年度4月以降が本番となりますので、今後の研究成果次第で、新工法開発のきっかけとしたいと考えています。
		農業用水路の経年劣化に対する非破壊検査手法の確立に向けての第1歩となった。
	26	耐凍上性能を向上させた補強土工法の性能を実証的に確認した。
製品の販売はこれからです。		
製造業	23	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
		DMR法によるCNTのリチウムイオン電池への実用化 実際にはまだ商品化には至ってないが、今一步のところまで来ている。
		従来よりも安価な原料を使用し、従来品と同等の強度を持つ試作袋(肥料袋)を製造し、低温時における強度比較を行ったが、低温時における強度は試作袋の強度が従来品よりも劣る結果が得られ試作袋の製品化は見送る事となった。望む結果ではないものの明確な差が得られた為、今回得られたデータを元に改良を行い改めて試験を行いたい。
		最新スキー技術に対応するスキーブーツ構造の理論構築(AUTOMATIC理論)ができた。
	24	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
		白煙、臭気の評価法を活用し、商品(排気臭の少ないトラック等)力が向上した。
		籾殻ガス化におけるタールの挙動、評価をおこなった。この成果を受けてミャンマー国の精米所に多く普及している200kw籾殻ガス化炉の改良を行い、電化改善に寄与する。
		共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中である。
	25	GPS情報で緊急車両の運行を支援するシステム構築、試作機も完成。試作機の機能向上と実現場でのモニタリングを継続テーマとして実施予定です。
		低温時の強度に優れたポリエチレン袋の選定を行うことが出来た。低温時の強度に優れたポリエチレン袋は現在製造している袋よりもコスト面にも優れた袋である為、現在切り替えの候補として提案中である。
26	ジオセルとジオグリッドを用いた新たな補強土壁工法で凍上に対する性能評価を確認することができた。	

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
製造業	26	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究において、日本人に適したブーツの開発に役立ち、現に上村愛子選手が2013シーズンのワールドカップでワールドチャンピオンになりました。
		肥料用ポリ袋の低温時の落袋強度を比較することで、現行品とテスト品の強度が同程度であることを確認出来た。その為、テスト品の製品化に向けたデータを得ることが出来た。
電気・ガス・水道業	26	現行システムの付属装置として、商品化を目指したいと考えております。
情報通信業	23	機能性サンゴによる健食の原料開発ができた。
	26	海中高速通信に関し、将来の製品化、事業化に向けた基礎的な知見を得ることができた。
光ファイバヒューズ現象のメカニズム解明、その抑制方法、製品化に向けた特許権利化等について、着実な成果が得られたと考えております。		
国・地公体 ・独法等	26	光学カメラで視認できない視界の悪い海底面をレーザー光により距離計測で3Dデータ取得に成功し、水中レーザーが製品化された。
		阿寒湖内でのマリモの球化現象について、球化が阿寒湖の地形が引き起こす回転現象や類似希な水質など特有の条件によって引き起こされるものだと科学的根拠に基づいて番組で紹介する事ができた。
その他	26	エゾ鹿肉の有効活用に向け、メニュー開発支援で開発されたエゾシカ肉を使用したメニューを生協食堂で企画提供することが出来、多くの組合員に支持されました。又、今後のエゾシカ肉を使用したメニューが有効活用されることで、地域貢献にも大きな成果があるものと期待します。

図表2. 2-6 研究成果の具体的内容(特許化)

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
製造業	23	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
	24	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。
		記入者は実際に研究に携わっている者ではないので成果云々に言及するだけの能力を持ち合わせていません。どうかご了承ください。
	共同研究の成果による路面測定の新技術にて、製品開発・販売を実現。更に改良研究を推進中です。	
26	まだ基礎研究の段階であるが、水素透過膜の活性劣化に関する重要な情報を得ることができた。	
情報通信業	26	光ファイバヒューズ現象のメカニズム解明、その抑制方法、製品化に向けた特許権利化等について、着実な成果が得られたと考えております。
国・地公体 ・独法等	26	凍上のメカニズムを実験により明らかにし、この原理を利用した大型土のうによる不良土の改良方法についての試験施工を行い、実用化の可能性を見いだした。
その他	25	積雪状態(雪質)の変化を光学的に判別する技術の確立(の途中である)。
	26	データ取得手法を生かした安定化機器の開発の目途が出来つつある=共同研究は続いているので。

図表2. 2-7 研究成果の具体的内容(その他)

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
建設業	23	GF工法で使用している裏面排水材の機能低下現象に関して、その原因と過程が科学的に解明され、工法の改良及び対策方法を検討する際の方向性が得られた。
	24	GF工法で使用している裏面排水材の機能低下現象に関して、その原因と過程が科学的に解明され、工法の改良及び対策方法を検討する際の方向性が得られた。
		機械インピーダンス法を用いた開水路の劣化診断技術が確立されれば、今後のコンクリート構造物の老朽化による社会インフラの維持管理に大きく貢献できる研究となる。
	25	橋梁維持管理におけるスマートセンサーの利活用に対し、一歩前進した。
		どのような過程を経て裏面排水材の機能が損なわれて行くかを科学的な根拠を持って説明できた。今後、得られた知見を基に、工法の技術的改良・改善へ着手できそうである。
		本共同研究は、平成26年度4月以降が本番となりますので、今後の研究成果次第で、新工法開発のきっかけとしたいと考えています。
		市内における公共土木工事の基礎資料として活用している。
26	ドライブシミュレーターによる乗り心地の評価を、高速道路の路面の補修目標値とする。	
製造業	23	・一般的には困難といわれ、また研究例の少ない重合反応について検討して頂き、問題、課題点が理解できた。また、関連する重合反応を利用した材料についての提案、情報提供をしていただいた。
		当方の望む製品化について需要があまりあるとは言えないことが分かった。
		洋上風力発電において、送電線の交流と直流の得失比較を行い、各々の送電のメリットデメリットを明らかにし、電気学会論文として掲載された。
		北海道在来種のニンニクについて、成分の特徴が明らかになった。また、同ニンニクを用いた加工技術についても検討され、知見が得られた。
		実用化に向けて、共同研究を継続中である。
	24	・一般的には困難といわれ、また研究例の少ない重合反応について検討して頂き、問題、課題点が理解できた。また、関連する重合反応を利用した材料についての提案、情報提供をしていただいた。
		実用化に向けて、共同研究を継続中である。
		CMOSインバータを利用したOTA。
		反応性スパッタ法を用いたバリア絶縁膜形成技術により、従来技術の延長性上には無い良質な常温バリア絶縁膜の可能性を実証できた。
人工着氷実験設備を用いた着氷試験の実施できた。		

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
製造業	25	バイオマス混合廃プラスチックのガス化反応特性等を明確化したこと。
		系統連系モデル化シミュレータによるインバータの開発を加速できた。
		反射率測定による路面の滑りやすさ推定の装置構成、判定の方法などの基礎技術が獲得できた。
		設計に関する利点の数値化と理論的な裏付けができた。
		北海道在来種のニンニクについて、特徴となる成分の組成を明らかにするとともに、加工物の機能も明らかとなりつつある。
電気・ガス・水道業	23	橋梁モデルによる遠隔サブストラクチャハイブリッド実験システムの有効性を確認することができた。
		抗酸化能評価により、製品の性質のひとつが確認されたことで、付加価値を高めることができた。
		製品化目的ではなく技術力の向上を目的としているので少しずつ技術力が向上している。
		製品化に至るまでの優れた性能は有していないことが確認できた。結果として製品化には至っていない。
		従来平均的な風速時における低キューリスパイラルの難着水効果の有効性を確認してきたが、今回の研究で高風速での効果について検証を行った。その結果風速が大きくなると電線表面から水滴を吹き飛ばす力が働く等、つらら発生のメカニズムについて基礎データを取得できた。
24	24	人工着氷実験設備を活用した試作品の評価ができた。
25	24	送電設備の落水対策技術において、振動を与えた試験体に対して雨水発生装置を用いて着氷させ効果を検証した。その結果撥水布に対しての着氷重量が試験条件にかかわらず少ない結果が得られた。
25	25	寒冷気候において自社インフラがさらされている環境について、これまで知りえなかった知見が得られた。特に、土壤凍結が進展する様子と、それが埋設導管に及ぼす応力の方向や大きさが明らかとなった。これらの貴重な知見を、今後の導管の建設や維持管理上の考慮事項として役立てたい。
26	26	事業インフラの更新計画に、本研究の成果を反映させることを計画しています。(今年度下期の報告を受けて、総合的に判断したいと考えています。
情報通信業	25	公的機関や企業への情報収集や木材活用の技術情報の提供に協力頂き、北見の木材の現状の把握や活用について北見市に報告した。
		健康創出価値のある大豆を核とした地域おこしの取り組みが行われている。大豆に含まれるイソフラボンには更年期障害の改善、骨粗しょう症の改善、ホルモン依存性がんの予防効果など様々な作用が知られている。有効成分として知られているエクオールはイソフラボンの腸内細菌による醗酵により生成されるが、今回、シイタケやヒラタケ、タモギタケを用いて大豆を発酵させたところ、エクオールが生成することが明らかとなった。これまでにエクオールの生成には個人差が知られていることから大豆をキノコで発酵させた製品は健康維持に役立つ可能性が高い。
		研究対象の事業はこれまでの人材育成事業により進めてきた商品化実習を中心とした内容を踏襲し実施してきた。その中で、6次産業化を目指す農業従事者の工業利用や大学シーズを活用した食品の開発例も増えてきており、特に25年度事業では北見工業大学学生による大学シーズの商品化研究で、当地域の特色を活かした農産品の活用へつなげる研究も提案されており、依頼元である北見市の興味を引く内容でもあったことが新たな成果であった。今後の地域貢献や工農連携に向けても一定の事業成果と研究成果を得ることができた。
卸売り・小売業	26	単一模擬電源、負荷装置を制御し、出力する電力を安定化させるシミュレートシステムの基盤を確立できた。
医療・福祉	25	総務部へ北見工業大学様と関わりを持ってもらうことで、業務の洗い出し・改善や他部門業務も兼ねたサポートを実現できている。
サービス業	23	地域に根差した中核人材の育成に成功した。
	24	地域に根差した中核人材の育成に成功した。

相手機関別 (業種内訳)	年度	当該共同研究の成果の説明を可能な限り具体的にお書き下さい。
国・地公体 ・独法等	23	環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。
		電気工学的、雪氷工学的アプローチにより、高電圧分野において他では得難い成果をもたらした。
		環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。
		北見市の潜在エネルギー量を調査し、「北見市新エネルギー・省エネルギービジョン」の基礎データとした。
		貴学の修士論文や学士論文に反映できた。
	24	共同研究により収集したデータをもとに「北見市新エネルギー・省エネルギービジョン」を策定することができた。
		共同研究を継続中。である
		北見工業大学が核となって、網走管内各自治体の下水道事業にたいし、技術情報等の伝達及び水質問題の解決に寄与してきている。
		環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。
		環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。
	25	研究の方向性として、これまでの共同研究内容をブラッシュアップし、より精緻化した条件の下で、定量的なデータ取得を行うこととしている。平成24年度については、所望の条件で実験を行うことができるよう、装置の作成と調整を実施した。平成25年現在、この装置を用いてデータの取得を行っている。
		環境施策を検討するために必要なデータの収集ができました。
		環境施策を検討するために必要なデータの収集ができました。
		下水汚泥中の重金属分析など、長期的な含有量等の推移を把握することが出来ている。
		環境に配慮した河道設計、管理技術の実用化に向け、河川環境を定量的に評価する手法を提案した。
共同研究を継続中である。		
26	高出力超短パルスファイバレーザーを開発し、この光源をフォトニック結晶ファイバに導入し、超広帯域光発生を行い、スペクトル特性などの評価を行った。	
	制振デバイスの低温時特性の把握による関連研究(橋梁耐震性能評価)の推進できた。	
	北見市の大気・水質・臭気・騒音振動等の把握と環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。	
その他	常呂川水系の水質状況把握と環境施策を検討するために必要なデータの収集ができた。	
	Cu拡散バリア膜の信頼性評価方法を確立できた。	
25	バリア膜の評価方法に関して、電圧を印加しながらリーク電流を測定する方法のノウハウを構築し、種々のバリア膜の評価に適用できるようになった。	

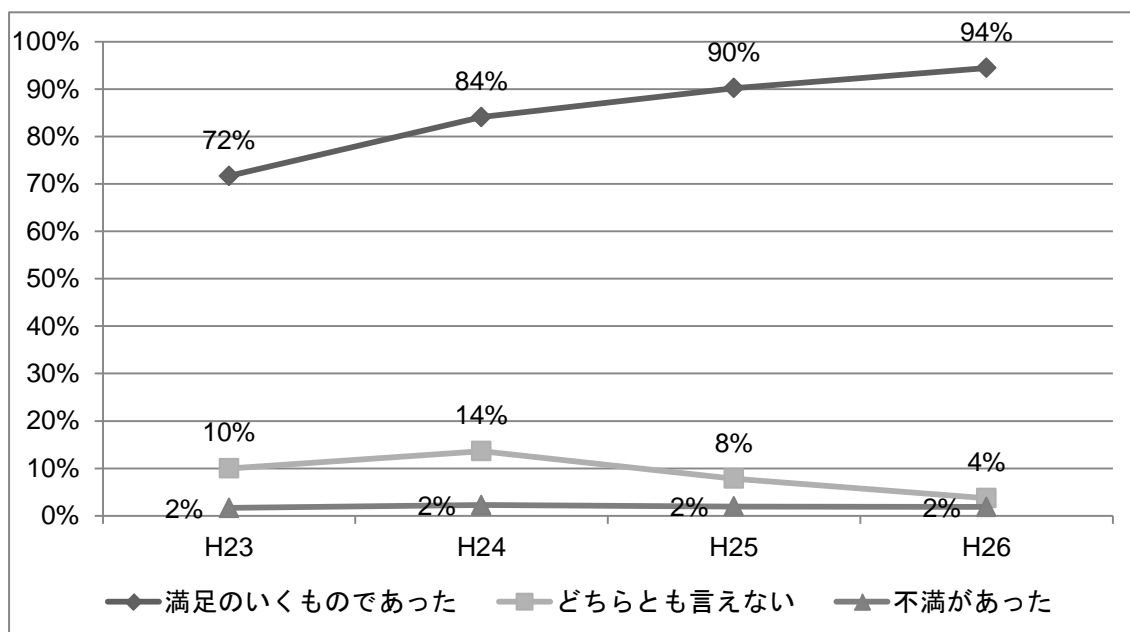
2. 3 共同研究の満足度等について

(1) 共同研究に係わる満足度

・本アンケート調査では、前記に整理した共同研究の案件別成果のほかに、相手機関の満足度についても調査を行った。

・共同研究における教員の対応については（図表2. 3-1）、年々満足度が向上しており、全体として高い満足度を与えているとみられる。

図表2. 3-1 共同研究における教員の対応について



【具体的な不満の内容】

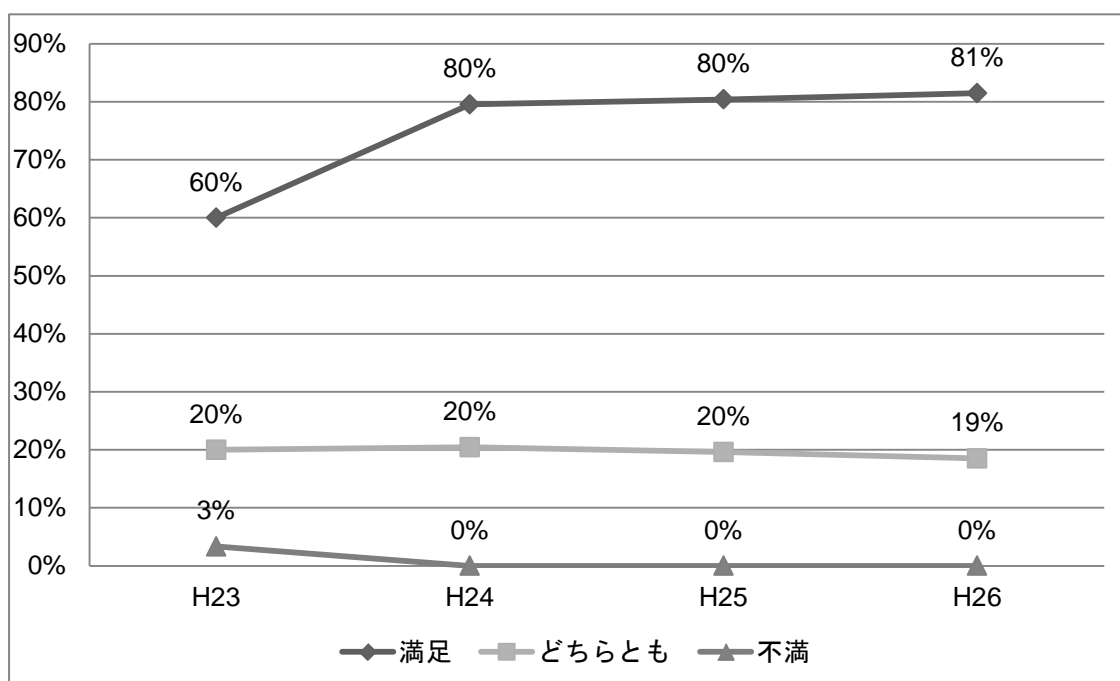
- ・途中経過報告が少ない、ない（H26）

・共同研究の成果について（図表2. 3-2）は、80%の機関が「満足いくものであった」としており、上記の教員の対応に対する満足度の比率には至らないものの、全体として高い満足度を与えているとみられる。

・平均して20%の機関は「どちらともいえない」と回答しており、研究成果の事業への活用、追加・継続的な研究開発などを模索している状況がうかがえる。

・「不満であった」とする機関はほとんどなく、今後も高い満足度を継続していく必要がある。

図表2. 3-2 共同研究の成果について



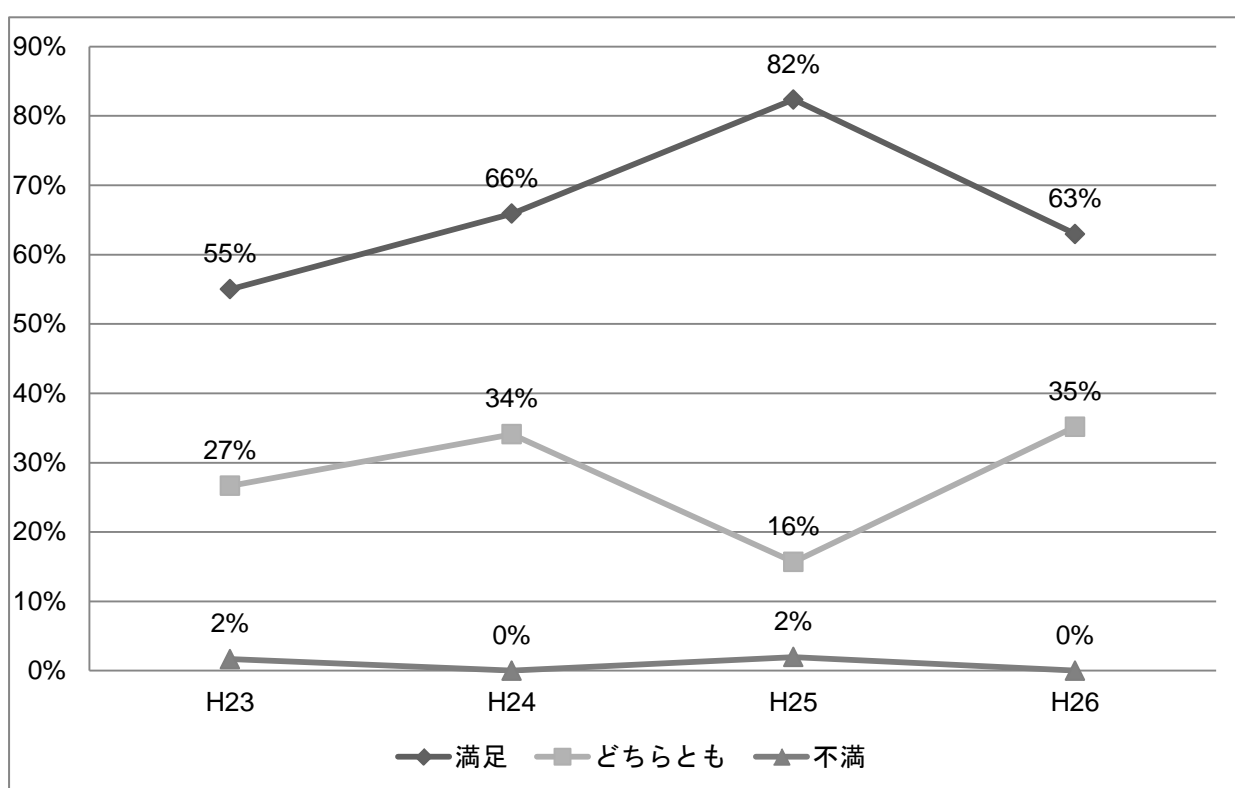
【不満の内容】

- ・企業が期待する成果の実現途中で終わった（H23）
- ・期待していたアウトプット（報告書、プレゼンテーションなど）の実現（H23）

・共同研究の手続き全般について（図表 2. 3-3）は、平均 60% を超える機関が「満足いくものであった」と回答しており、「どちらともいえない」との回答は平均 28% となっている。

・「不満であった」とする回答の具体的な内容としては、企業のための成果が出ないことをあげている。

図表 2. 3-3 共同研究の手続き全般および契約の中身（機密保持、知的財産の取扱など）



【不満の内容】

- ・共同研究に関する申し込み関連の書類については、廃止しても良いのではないのでしょうか。(H23)
- ・担当された方が誠意を持って対応するようにはいかがかと。(男性が該当) (H23)
- ・契約文書がパスワード保護などされずにメール添付されていた点。機密文書をメール添付する場合には、第三者に傍受されないよう、ファイル圧縮+パスワード保護といった手段を講じていただければと思います。(H25)

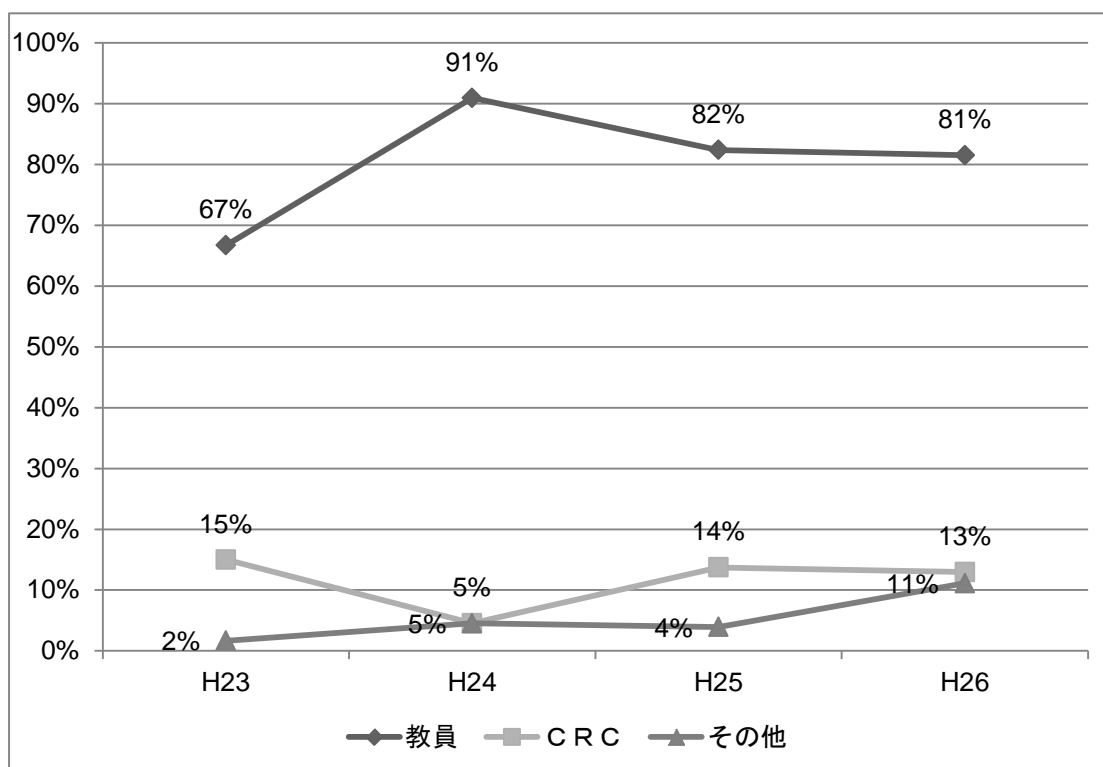
(2) 共同研究の開始のきっかけ

・共同研究の開始のきっかけについてみると（図表2. 3-4）、企業等が独自に教員と連絡をとるケースが最も多く、平均すると全体の80%以上を占めている。

・CRCが窓口となったケースは平均12%であり、CRCが企業等の技術面の課題解決の最初の窓口として機能していることがわかる。

・「その他」について具体的な内容をみると、CRCと業務において何らかの係わりを持つ機関や本学を知る人の仲介、本学に直接連絡等があげられている。

図表2. 3-4 共同研究の開始のきっかけ

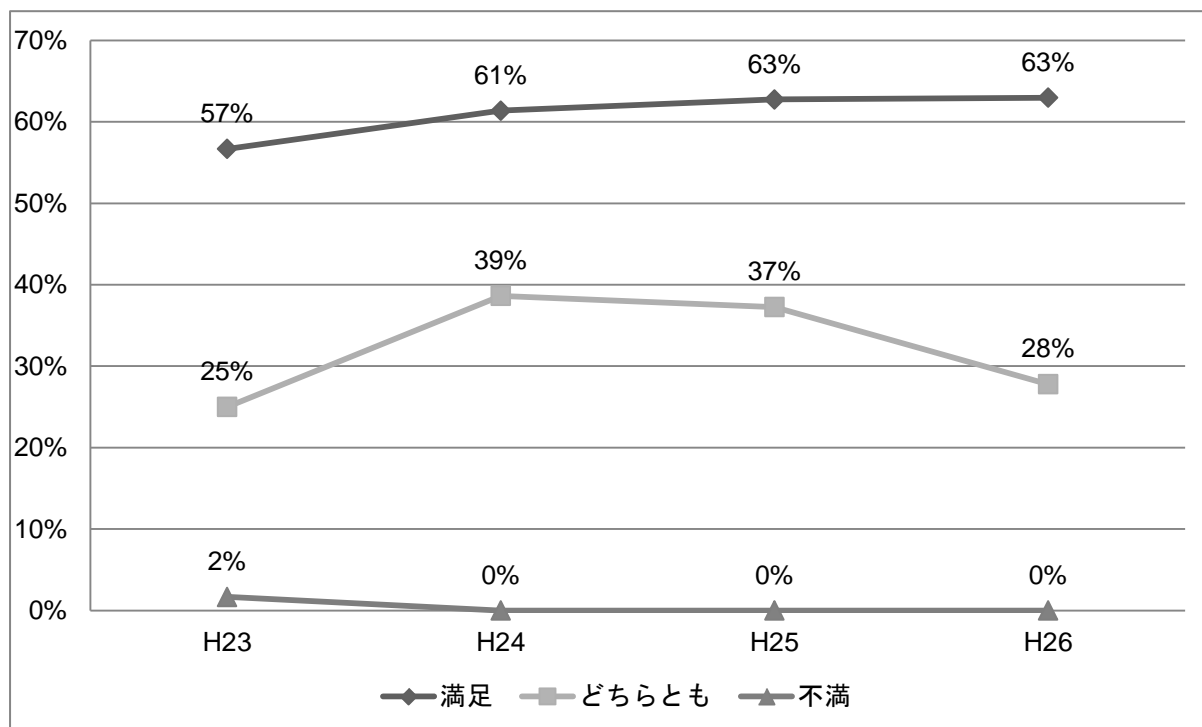


【その他の内容】

- ・学会等(H23)
- ・事業評価委員会による採択後(H24)
- ・定期的に先生と連絡を取り次年度の研究内容入手できる(H24)
- ・北海道庁および北見市からのご紹介 (H24)
- ・他の共同研究者からの持ちかけ(H25)
- ・北海道庁および北見市の仲介(H25)

・CRCの仲介のうち、センターの対応について（図表2. 3-5）は平均60%以上の機関が満足と回答している。

図表2. 3-5 CRCの対応について

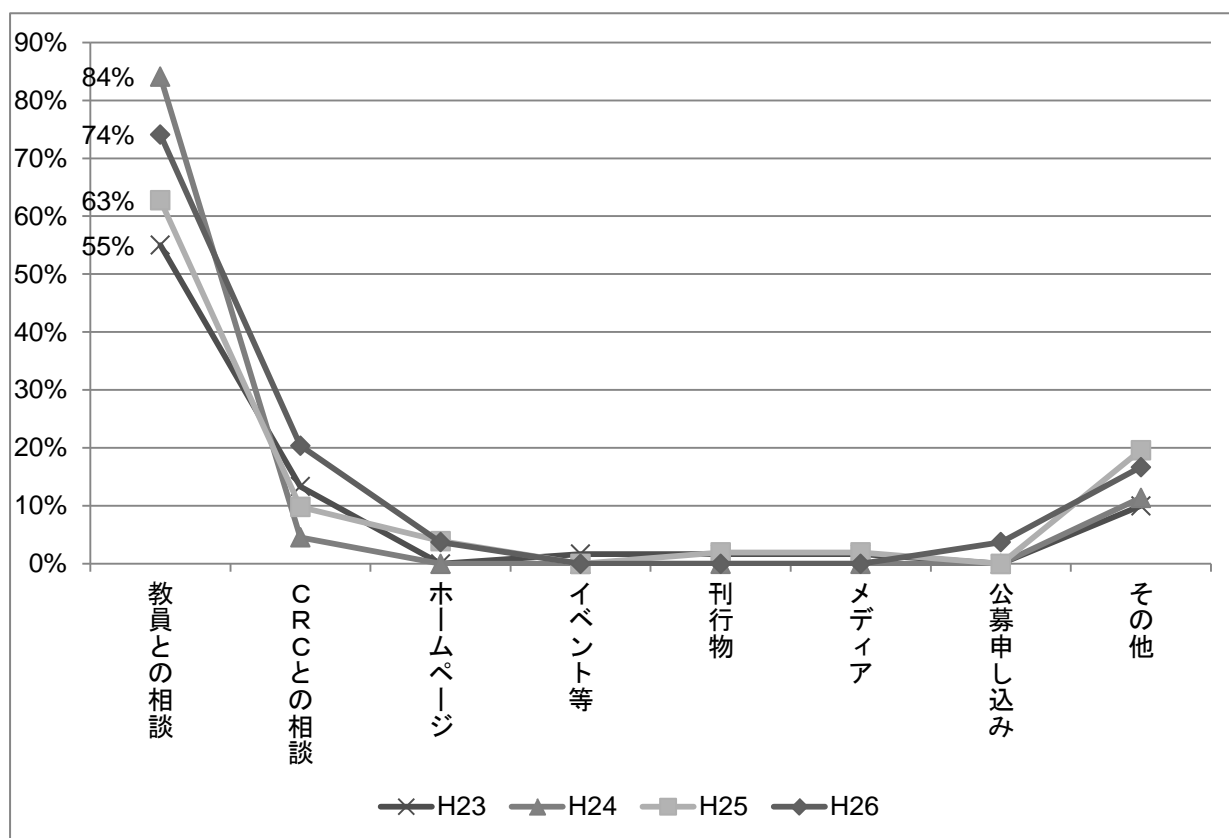


(3) 本学の研究内容を知るきっかけ

・本学の研究内容を知るきっかけについてみると（図表2. 3-6）、教員と相談が平均すると70%近くを占め、その他、CRCとの相談が続いている。

・「その他」について具体的な内容をみると、本学を知る機関や関係者からの紹介、本学OB、学会や論文からの情報等があげられている。

図表2. 3-6 本学の研究内容を知るきっかけ（重複回答あり）



【その他の内容】

- ・ 林野庁の補助事業(H23、H24)
- ・ 以前に共同研究を実施していたため(H23)
- ・ 弊社の所属する産学連携研究会から(H23)
- ・ 弊社からの依頼(H23、H24)
- ・ 有力取引先からの紹介(H23)
- ・ 農業農村工学会北海道支部での本学教員の発表(H24、H25)
- ・ オホーツク技術士会を通して(H24)
- ・ 土木学会等(H24)
- ・ 北海道庁および北見市からのご紹介(H24、H25)
- ・ 以前に共同研究を実施したから (H24、H25)
- ・ 共同研究している業者さんの紹介 (H25)
- ・ 共同研究相手の一つである業者からの紹介(H25)
- ・ 電気学会 (H25)
- ・ 弊社取引先からの紹介(H25)
- ・ 学会発表などの論文(H25)
- ・ 本学の OB のご紹介(H26)
- ・ 過去の共同研究に関する資料、学会発表論文等(H26)
- ・ 弊社連携先からの紹介 (H26)
- ・ 以前より知己があった(H26)
- ・ 学会発表、IGS シンポジウム(H26)

(4) 本学およびCRCに対する自由意見

・本学およびCRCに対する意見・感想等の回答内容は、以下の図表2. 3-7のとおりである。

図表2. 3-7 北見工大および地域共同研究センターに対する意見・感想

相手機関別 (業種内訳)	年度	内容
建設業	24	いつも、北見工業大学のコンクリートの先生でありますA先生やB先生に熱心な指導を頂いており、深く感謝しております。今後も変わらぬ御指導を御願ひしたいと考えております。
製造業	23	研究スピードが速く、アウトプットが確実なため、引き続き宜しく願ひいたします。
		数回研究させて頂いているのですが、いつも準備万端の姿勢で対応して頂いているため、とてもスムーズに試験を行え感謝しております。
	24	優秀かつ真面目な学生が多くいるので、自動車産業にも就職の推薦をお願いします。物づくり日本の若手技術者に期待しています。
	25	学生がよく勉強している。外部からも訪問しやすい雰囲気であった。
		いつも、急な弊社の依頼に対し、迅速・柔軟・丁寧に対応していただき誠に感謝しております。
	26	非常に相談しやすい学校風土(環境)だと感じました。また研究を進めるにあたり、当方の都合を理解して頂いたことは感謝しております。
いつも急な共同研究依頼に対応していただき誠に感謝しております。		
電気・ガス・水道業	25	貴学の研究者の皆さまは、研究に対する情熱を持ち、また弊社のニーズをよく理解してくださいます。さらに、真摯に研究に打ち込むだけでなく、研究に先立つ弊社との協議から途中経過報告・協議、そして研究成果報告までしっかりしてください。そして、共同研究終了後も、そのご縁を大切にくださり、相談時や訪問時にも快くご対応いただき、大変感謝しております。また一方、産官学連携コーディネーター様には、弊社のニーズをよくみていただき、的確にマッチングのご支援をいただいています。貴学との協働を通じて地域社会に貢献したいと願う当社とともに、継続的視点に立って、適宜情報提供や研究進捗のフォローをいただき、共に研究を企画立案していただけるパートナーとして、大変ありがたく感じております。この良い関係を発展させて、共にさらなる地域貢献を果たすことができましたら幸いです。今後とも、一層のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
	26	いつも、社会連携推進センター様には、共同研究の企画段階から、立ち上げ、実施、完了後まできめ細やかにご対応いただいております。距離的に離れているという障害を補って余りある支援をいただき、厚く感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。
情報通信業	26	今年度も引き続き有益な共同研究を行わせて頂いており、お礼申し上げます。
卸売り・小売業	25	実験機材の故障により、貴学・弊社とも満足度のいく成果が生まれませんが、今後も継続して参画させていただければと存じます。
国・地公体・独法等	23	A様(B課長)のご担当でした。対応に問題があり、その件については、当時電子メールでA様にお伝えしています。いきなり、電話連絡もなく一発メールで連絡が来たのも大変遺憾に感じており、市教と連携を結んでも学校文化の理解が事務方でできているとは、当然言いがたいです。学校は電話連絡または、直接対話であり、その後メールなどの活用になるのです。地域連携協定を結んで研究者ががんばっても研究協力の窓口がこの対応モラル等ですと、大学との連携は閉ざされることになるので、どうかお気をつけ下さい。なお、研究者は対応はすばらしく、学校現場の対応を熟知しているので問題は全くありません。研究協力課の課題としてとらえ下さい。
	26	今回のアンケートの対象課題について、弊機構では共同研究の位置付ではなく、共同事業契約とさせていただいておりますので、回答できない設問が多々ありますが、ご了承願ひします。
その他	23	本研究において、貴重なご指導を頂き有用な知見を得たと考えています。また、諸手続きについても円滑に実施できたと考えています。
	25	学生さんの雰囲気から、また教員の皆さんの対応から大変アットホームな環境にあるように感じました。今後ともご指導、よろしくお願い致します。

資 料 編

資料編

・本調査では、平成23年度～平成26年度に実施された共同研究テーマ（計313件）を対象として、以下の項目について整理した。

① 相手機関の所在	(本編1. 2)
② 研究素材の地域性	(本編1. 2)
③ 相手方の事業範囲	(本編1. 2)
④ 研究対象(目標)	(本編1. 3)
⑤ 研究分野	(本編1. 3)

・ <機関別一覧> : P. 1～17

・ <年度別一覧>

平成23年度(77件) : P. 18

平成24年度(68件) : P. 21

平成25年度(82件) : P. 25

平成26年度(86件) : P. 29

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野										成 果											
				オホー	道内	道外	オホー	当地域と	地域を問	その他特	オホー	北海道内	国内外	新規事業	技術改良	市民生活	ライフサイ	環境	ナノテク	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンテ	その他	起業化	事業化	技術実用	製品化	特許化	その他								
E&Cエンジニアリング(株)	24	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也		○			○				○	○	○	○																○	○						
	25	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也		○			○				○	○	○	○																○	○						
	26	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也		○			○				○	○			○																			○			
JFEスチール(株)	23	革新的使用済みプラスチック分解技術に関する基礎研究	岡崎 文保			○		○				○	○			○																			○			
	24	革新的使用済みプラスチック分解技術に関する基礎研究	岡崎 文保			○		○				○	○					○																		○		
	25	循環資源等の革新的ガス化技術に関する研究	岡崎 文保			○		○				○	○					○																		○		
	26	廃プラスチック等のガス化メカニズムに関する研究	岡崎 文保			○		○				○	○					○																		○		
JX日鉱日石エネルギー(株) 水素・FC研究所	25	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史			○		○				○						○																				
	26	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史			○		○				○							○																			
JX日鉱日石エネルギー(株) 中央技術研究所	26	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史			○		○				○	○					○																		○		
PVG Solutions(株)／(株)KITABA	24	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉			○		○				○	○	○	○				○																	○		
	25	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉			○		○				○	○	○	○					○																	○	○
	26	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉			○		○				○	○	○	○					○																	○	
アドバンストヘルスケア(株)	26	知識情報処理技術のヘルスケアへの対応	前田 康成			○		○				○										○																
いすゞ自動車(株)	23	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善—白煙、臭気に関する研究	林田 和宏			○		○				○																										
	24	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善—白煙、臭気に関する研究	林田 和宏			○		○				○	○	○																							○	○
	25	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善—白煙、臭気に関する研究	林田 和宏			○		○				○																										
	26	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善—白煙、臭気に関する研究	林田 和宏			○		○				○																										
エンバイオテック(株)	24	モミ殻半炭化物から発生するタールの実用除去法の開発	鈴木 勉			○		○				○	○	○																						○	○	

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野						成 果																
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他								
オイレス工業(株)	25	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	宮森 保紀		○		○				○										○																		
	26	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	宮森 保紀		○		○				○			○								○															○		
オホーツク新エネルギー開発推進機構	23	オホーツク・オフライン熱供給システムの実現に関する調査研究	山田 貴延	○			○			○			○						○																	○			
	23	温泉廃熱高度利用(ハイブリッド植物工場)研究	佐々木 正史	○						○	○								○																		○		
	23	北見市新エネルギービジョン改訂に向けた基礎調査研究	小原 伸哉	○			○			○										○																		○	
	26	廃トンネル内雪室の冷熱エネルギーを利用した農作物の貯蔵	舘山 一孝	○				○		○									○																			○	
	26	北見発のメタン直接改質技術による水素・ナノ炭素併産及び持続的の高度利用	岡崎 文保	○			○			○									○																			○	
ティーアール・コンサルタント(株)	23	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた”舗装の評価システム”の実用化に関する研究	川村 彰		○			○			○										○																		
	24	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた”舗装の評価システム”の実用化に関する研究	川村 彰		○			○			○										○																		
	24	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	川村 彰		○			○			○										○																		
	25	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	川村 彰		○			○			○										○																		
	26	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた”改良型舗装の評価システム”の補完	川村 彰		○			○			○										○																		
パシフィックコンサルタンツ(株)	23	電気自動車の普及促進と電気自動車を活用した地域振興に関する研究	高橋 清		○			○			○										○																	○	
ブレイン(株)	26	スキーブーツのフットベッド用パーツの基本設計に関する研究	鈴木 聡一郎		○			○			○																											○	
ホクレン包材(株)	23	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	○			○			○									○																		○		
	25	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	○			○			○										○																		○	
	26	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	○			○			○										○																		○	
ヤマハ発動機(株)	25	前方路面の状態検出に関する研究	高橋 修平		○		○			○	○	○								○																		○	
リコーITソリューションズ(株)	25	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの実現	小原 伸哉		○		○			○	○	○	○							○																	○		
	26	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	小原 伸哉		○		○			○	○	○	○								○																		

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果														
				オホー ツク圏	道 内	道 外	オホー ツク圏内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オホー ツク圏内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サ イ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他							
リコーITソリューションズ(株)	26	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	小原 伸哉		○		○				○	○	○					○									○											
ルネサスエレクトロニクス(株)	23	超低電圧動作アナログ回路の研究	谷本 洋		○			○			○	○	○			○													○									
	24	超低電圧動作アナログ回路の研究	谷本 洋		○			○			○	○	○			○																	○					
旭硝子(株)技術本部技術企画室/国立大 学法人北海道大学電子科学研究所	24	インプリント法とコロナ帯電法を用いたナノ構造形成技術に関する研究	原田 建治			○		○			○								○																			
旭硝子(株)/北海道大学	23	インプリント法とコロナ帯電法を用いたナノ構造形成技術に関する研究	原田 建治			○		○			○								○																			
	23	コロナ耐電処理によるガラス表面改質	原田 建治			○		○			○								○																			
医療法人社団 拓美会 玉越病院	25	精神科病院のマネジメントに関する研究	有田 敏彦	○				○	○			○	○										○											○				
	26	精神科病院のマネジメントに関する研究	有田 敏彦	○				○	○			○	○										○												○			
一般財団法人電力中央研究所	23	着雪がいのフラッシュオーバー・メカニズムと耐電圧試験法の検討	有田 敏彦			○		○			○		○						○																○			
	24	着雪がいのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	川村 彰			○		○			○		○						○																	○		
	25	着雪がいのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	川村 彰			○		○			○		○						○																		○	
	26	着雪がいのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	川村 彰			○		○			○		○						○																		○	
一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	24	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	○				○	○			○	○										○													○		
	24	粒子分散型MMCの開発	伊藤 英信	○				○	○			○	○	○					○															○				
	25	GMT材料の高機能化に関する研究	伊藤 英信	○				○	○										○																			
	25	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	○				○	○														○															
	26	光触媒フィルターに関する研究	伊藤 英信	○				○	○			○	○				○																			○		
	26	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	○				○	○				○	○									○														○	
岡三リビック(株)/東京インキ(株)	24	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究	川口 貴之		○		○				○	○	○								○							○	○	○								
	25	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究	川口 貴之		○		○				○	○	○								○							○	○	○								

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果							
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他
岡三リビック(株)ノ東京インキ(株)	25	凍結融解作用と実物大補強土壁の性能に関する実験研究	川口 貴之		○		○					○	○	○							○					○	○	○			
	26	凍結融解作用と実物大補強土壁の性能に関する実験研究	川口 貴之		○		○					○	○	○							○					○	○	○			
果夢林ショップ運営協議会	25	おんねゆ温泉・山の水族館 凍る滝の開発	高橋 修平	○			○				○		○							○							○			○	
	26	おんねゆ温泉・山の水族館 凍る滝の研究開発	白川 龍生	○			○				○									○											
花王(株)	23	多糖類を利用した機能性素材の開発	兼清 泰正		○			○										○													
	24	多糖類を利用した機能性素材の開発	兼清 泰正		○			○					○					○											○		
学校法人五島育英会京都市大学	25	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	大橋 鉄也		○			○						○				○													
	26	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	大橋 鉄也		○			○						○				○													
(株)KDDI研究所	24	IDMA受信機のデジタル回路構成法の課題抽出と解決法に関する研究	吉澤 真吾		○			○						○			○														
	25	IDMA送受信機の試作と実証実験	吉澤 真吾		○			○						○			○														
(株)エクサ設計	23	GPS誘導空撮機による航空測量のためのカメラ自動制御システムの開発	羽二生 博之	○				○				○	○							○							○				
	25	GPS誘導空撮機による河川および海岸工事施工調査	羽二生 博之	○				○													○										
(株)カンテック	23	日本語文書分析手法の研究	榎井 文人		○			○				○	○	○		○										○					
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	25	帯状ガイドライトの設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	川村 彰		○			○				○	○	○						○						○	○				
	26	帯状ガイドライトの設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	川村 彰		○			○				○								○											
(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道	23	STAMPERを用いた乗り心地悪化箇所の抽出	川村 彰	○				○				○	○	○						○							○	○			
	24	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷プロファイル抽出方法	川村 彰	○				○				○								○											
	25	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷プロファイル抽出プログラム	川村 彰	○				○				○								○											
	25	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷箇所の抽出及び補修延長の検討	川村 彰	○				○				○								○											
	26	簡易IRI測定装置を利用した局所的な路面損傷評価手法の検討	川村 彰	○				○				○								○											

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の 所在			研究素材の 地域性				相手方の 事業範囲			研究対象 (目標)			研究分野						成 果																							
				オ ホー ック 圏	道 内	道 外	オ ホー ック 圏内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オ ホー ック 圏内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サイ エ ンス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他															
(株)ネクスコ・エンジニアリング 北海道	26	簡易IRI測定装置を利用した路面プロファイル評価手法の検討	川村 彰	○			○														○																									
(株)ハーバー研究所	24	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬		○	○									○																															
	25	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬		○	○									○																															
	26	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬		○	○									○																															
(株)レクザム	23	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎		○			○				○	○	○	○																									○						
	24	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎		○			○					○											○																						
	25	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎		○			○					○											○																						
	26	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎		○			○					○	○	○									○																						
(株)ワーカム北海道	23	一般路対応簡易IRI測定システム開発と新興国路面性状の把握	川村 彰	○				○				○	○	○				○																							○	○	○			
	24	一般路対応簡易IRI測定システム開発及び各国路面IRIデータ収集と活用	川村 彰	○				○				○	○	○									○																			○	○	○		
	25	GPSとWebを用いた緊急車両の冬季運用遠隔支援システムの開発	羽二生 博之	○				○				○	○	○									○																							
	25	一般路対応簡易IRI測定システム開発及び各国路面IRIデータ収集と活用	川村 彰	○				○					○										○																							
	26	PVCガス除湿システム基礎研究	石谷 博美	○				○				○	○				○																													
	26	緊急車両遠隔支援システム開発	羽二生 博之	○				○				○	○										○																							
(株)共和電業	23	一般道用IRI測定手法の研究	川村 彰		○			○				○											○																							
(株)共和電業/ (株)ワーカム北海道 /大成ロテック(株)	24	「STAMPERを活用した簡易IRI測定技術」の共同研究・開発	川村 彰		○			○				○	○	○								○																						○	○	○
(株)健康水素協会	23	サンゴの高機能性化の研究	山岸 喬		○			○				○	○	○																													○	○		
	24	サンゴの高機能性化の研究	山岸 喬		○			○				○	○	○									○																						○	○
(株)構研エンジニアリング	23	バイオマス資源を有効活用した道路路面緑化工法の検討	中村 大	○				○				○	○									○																								
(株)高速道路総合技術研究所	23	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○			○				○	○									○																							○	

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果								
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他	
(株)高速道路総合技術研究所	24	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○		○				○	○									○					○						
	25	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○		○				○										○											○
	25	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○		○				○										○											○
	26	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○		○				○										○											
	26	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰		○		○				○										○											
(株)大阪テクノクラート	24	スカイラジエータに関する開発研究	三木 康臣		○		○			○									○													
	25	スカイラジエータに関する開発研究	三木 康臣		○		○			○									○													
(株)池知建設/北見市	24	低価格水産加工排水処理施設の研究開発	堀内 淳一	○			○		○		○					○											○					
(株)東芝 生産技術センター 光技術研究センター	26	境界要素法を用いた電磁波厳密計算に関する研究	杉坂 純一郎		○		○			○	○	○			○												○					
	26	電磁波の厳密計算に関する研究	杉坂 純一郎		○		○			○	○	○							○								○					
(株)日本製鋼所 室蘭製作所	26	風車による系統制御技術の開発	高橋 理音	○			○			○	○							○								○						
(株)日本製鋼所 室蘭製作所 風力製品部	25	風車による系統電圧の変動抑制技術の開発	高橋 理音	○			○		○		○	○						○								○	○					
(株)日立産機システム	23	系統連携インバータ用系統モデル化検討	田村 淳二		○		○			○								○														
	24	系統連系インバータ用系統モデル化検討	田村 淳二		○		○			○								○														
	25	系統連系インバータのモデル化検討	田村 淳二		○		○			○	○							○								○						○
(株)日立製作所 中央研究所	23	風力発電と連携した水電解システム制御技術の研究	田村 淳二		○		○			○								○														
(株)日立製作所 日立研究所	23	新エネルギーシステム変動制御技術の検討	田村 淳二		○		○			○	○	○	○					○														○
	24	新エネルギーシステム変動制御技術の検討	田村 淳二		○		○			○								○														
	25	新エネルギーシステム変動制御技術の検討	田村 淳二		○		○			○	○	○						○								○	○					
	25	電力系統-機器連成解析技術に関する研究	田村 淳二		○		○			○	○	○						○								○	○					

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)		研究分野											成 果															
				オホー ツク圏	道 内	道 外	オ ホ ー ツ ク 圏 内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ 他 特 定 地 域	オ ホ ー ツ ク 圏 内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サ イ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他											
(株)日立製作所 日立研究所	26	電力系統-機器連成解析技術に関する研究	田村 淳二		○		○				○							○																								
(株)白石ゴム製作所	23	河床変動調査船の研究開発	渡邊 康玄	○			○				○		○	○			○																						○			
(株)富士通研究所	23	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓		○		○				○						○																									
	24	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓		○		○				○	○	○	○		○																								○		
	25	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓		○		○				○					○																										
	26	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓		○		○				○					○																										
(株)豊水設計	23	技術監理を導入した総合的な橋梁振動測定、構造健全度診断手法の開発	宮森 保紀	○			○				○	○	○	○								○																		○		
	24	橋梁維持管理におけるスマートセンターの利活用に関する研究	宮森 保紀	○			○				○	○	○	○								○																			○	
	25	橋梁維持管理におけるスマートセンサーの利活用に関する研究	宮森 保紀	○			○				○	○	○	○								○																			○	
	26	橋梁維持管理におけるモニタリングデータの貯蔵と活用に関する研究	宮森 保紀	○			○				○	○	○	○								○																			○	
(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター	23	大規模FDTD法を使った電磁界解析技術の構築に関する共同研究	柏 達也		○		○				○						○																									
	24	大規模FDTD法を使った電磁界解析技術の構築に関する共同研究	柏 達也		○		○				○						○																									
	25	専用EWS上で稼働可能な実車大規模FDTD電磁界解析システムの開発	柏 達也		○		○				○	○	○	○		○																										○
	26	専用EWS上で稼働可能な実車大規模FDTD電磁界解析システムの開発	柏 達也		○		○				○	○	○	○		○																										○
丸善石油化学(株)	23	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	浪越 毅		○		○				○	○					○																								○	
	24	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	浪越 毅		○		○				○	○	○				○																								○	
企業組合北見産学医協働センター	23	第6次産業人材育成事業の連携体制構築に係る研究	吉田 孝	○			○			○			○														○														○	
	23	道内産農業廃棄物の有効利用に関する研究	佐藤 利次	○			○				○			○		○																									○	
	23	道内産農産物の化粧品化に関する研究	山岸 喬	○			○				○			○		○																									○	
	23	クリーンエネルギー利用可能性調査に係る研究	小原 伸哉	○			○				○						○																								○	

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果														
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他							
企業組合北見産学医協働センター	23	ベリー類の機能性に関する研究	新井 博文	○				○					○		○																○							
	25	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	佐藤 利次	○					○				○											○									○					
	25	地域材循環システム構築に関する研究	川村 彰	○					○					○										○										○				
	25	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業の効果に関する研究	川村 彰	○					○					○	○									○										○				
	26	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	佐藤 利次	○					○															○														
	26	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の効果に関する研究	川村 彰	○					○															○														
	26	地域材循環システム構築に関する研究	川村 彰	○					○															○														
協同組合ラテスト	23	木質バイオマスの鉄触媒炭化による高導電性炭素の製造	鈴木 勉			○		○				○	○							○					○													
	24	木質系材料の触媒炭化による電磁波遮蔽用炭素の製造	鈴木 勉			○		○				○	○							○					○													
金印(株)	23	「本わさび他の香りメカニズムの解明・機能性成分の分析による増減理由の解析」のための共同研究	山岸 喬	○				○				○	○		○																			○				
	24	香気物質の分析・解析	山岸 喬	○				○				○	○							○															○			
戸田工業(株)	23	Liイオン二次電池用導電材料の開発	岡崎 文保			○		○				○	○	○				○																	○			
公益財団法人鉄道総合技術研究所	26	改良土の強度・変形特性に関する研究	川尻 峻三			○		○				○									○																	
国土技術政策総合研究所	24	閉鎖性水域における環境影響評価	中山 恵介			○						○		○				○																		○		
国立大学法人帯広畜産大学	25	光分解性ポリオレフィン系樹脂の微生物による生分解に関する研究	中谷 久之	○				○				○	○					○																		○		
国立大学法人筑波大学	24	コーナリング速度を向上するスピードスケート靴に関する研究	鈴木 聡一郎			○		○				○		○						○																○		
札幌シティ環境(株)	23	ごみBOXの製品改良と製造能率向上に関する研究・開発	翰師 守	○				○				○						○																				
三井化学産資(株)	26	抗菌剤配合の暗渠パイプを用いた水酸化鉄の付着軽減可能性の検証	川口 貴之			○		○				○	○							○																	○	
三恵技研工業(株) 赤羽工場	24	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保			○		○				○							○																			
	25	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保			○		○				○							○																			

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野										成 果																							
				オ ホー ツク 圏	道 内	道 外	オ ホー ツク 圏 内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ 他 特 定 地 域	オ ホー ツク 圏 内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サイ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他																			
三恵技研工業(株) 赤羽工場	26	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保			○					○							○																																
三菱電機特機システム(株)	25	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	吉澤 真吾			○					○						○																																	
	26	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	吉澤 真吾			○					○						○																																	
	26	水中音響通信装置の実証検証	吉澤 真吾			○					○						○																																	
芝浦工業大学	23	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓			○					○						○																																	
	24	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓			○					○							○																																
	25	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓			○					○							○																																
斜里町	23	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	高橋 信夫	○			○				○						○																																	
	24	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	高橋 信夫	○			○				○							○																																
	25	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	高橋 信夫	○			○				○							○																																
	26	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	坂上 寛敏	○			○				○							○																																
社団法人北見工業技術センター運営協会	23	ガラス系機能皮膜の開発とその評価	伊藤 英信	○						○							○				○																													
	23	材料延性損傷進展に関するX線の検討	柴野 純一	○						○								○																																
	23	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	○						○								○								○																								
常呂川水系環境保全対策協議会	23	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	○			○				○						○																																	
	24	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	○			○				○							○																																
	25	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	○			○				○							○																																
	26	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	○			○				○							○																																
水元建設(株)	25	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	井上 真澄	○						○																																								
	26	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	井上 真澄	○						○																																								

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果											
				オ ホ ー ツ ク 圏	道 内	道 外	オ ホ ー ツ ク 圏 内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オ ホ ー ツ ク 圏 内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サイ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他				
大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所	26	無水二糖モノマーの開環重合と生物化学反応による抗インフルエンザウイルス性糖鎖の合成と評価	吉田 孝			○						○																				○			
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所	25	環北極陸域システムの変動と気候への影響	佐々木 正史			○							○				○																		
	25	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	亀田 貴雄			○						○					○																		
	25	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	館山 一孝			○						○					○																		
	26	環北極陸域システムの変動と気候への影響	佐々木 正史			○						○	○				○																		
	26	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	亀田 貴雄			○						○	○				○																		
	26	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	館山 一孝			○						○	○	○			○																		
大成ロテック(株)	23	STAMPER IIを活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	川村 彰			○		○				○	○									○													
	24	STAMPER IIを活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	川村 彰			○		○				○	○	○								○													
	24	STAMPER II及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰			○		○				○	○	○								○													
	25	STAMPER II及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰			○		○				○										○													
	26	STAMPER II及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰			○		○				○	○	○								○													
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	23	土砂災害軽減のための地すべり活動度評価手法の開発	伊藤 陽司	○				○				○										○													
中部電力(株) 電力技術研究所	23	架空地線の着氷・落水低減に関する調査研究	有田 敏彦			○		○				○	○																					○	
	24	架空地線の着氷抑制・落水低減に関する基礎研究	有田 敏彦			○		○				○																							
東京電力(株)	23	送電設備の落水対策技術に関する研究(その7)	有田 敏彦			○		○				○	○																						○
東京電力(株) 技術開発研究所	24	送電設備の落水対策技術に関する研究(その8)	川村 彰			○		○				○	○																						○
東北電力(株) 研究開発センター	23	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦			○		○				○																							
	24	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦			○		○				○																							

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果							
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他
東北電力(株) 研究開発センター／ 日本ガイシ(株) 電力事業本部 電力技術研究所	25	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦		○		○			○		○						○											○		
	26	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦		○		○				○	○	○						○										○		
東洋アルミニウム(株)	23	ナノ粒子への誘電体被覆	大野 智也		○		○			○	○						○													○	
道東ネイチャーテック倶楽部	23	太陽熱利用機器の高度利用について	三木 康臣	○			○		○									○													
(独)宇宙航空研究開発機構／(株)センテナリア	25	雪氷状態モニタリング技術の開発	館山 一孝		○		○				○	○	○							○								○	○	○	
	26	雪氷状態モニタリング技術の開発	館山 一孝		○		○				○	○	○	○						○								○	○		
(独)海洋研究開発機構／三菱電機特機システム(株)／三菱電機(株)情報技術総合研究所	25	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	吉澤 真吾		○		○				○	○			○													○			
	26	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	吉澤 真吾		○		○				○	○			○													○	○	○	
(独)産業技術総合研究所／国立大学法人茨城大学	24	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖		○		○				○				○																
	25	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖		○		○				○	○			○															○	
	26	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖		○		○				○	○	○	○	○															○	
(独)土木研究所寒地土木研究所	24	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	渡邊 康玄	○			○			○		○	○							○										○	
	25	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	宮森 保紀	○			○			○		○	○							○										○	
	25	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	渡邊 康玄	○			○			○		○	○							○										○	
	26	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	宮森 保紀	○			○			○		○								○										○	
	26	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	中村 大	○			○			○		○	○							○								○	○		
(独)土木研究所寒地土木研究所／日東建設(株)	24	機械インピーダンス法を用いた寒冷地コンクリート開水路の劣化診断技術の研究	井上 真澄	○			○			○		○	○	○						○								○		○	
	25	機械インピーダンス法を用いた寒冷地コンクリート開水路の劣化診断技術の研究	井上 真澄	○			○			○		○	○	○						○								○	○		

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野								成 果													
				オホー ツク圏	道内	道外	オホー ツク圏内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オホー ツク圏内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サ イ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他							
(独) 日本原子力研究開発機構	23	偏波面制御ならびに経時的物性値に即応した高効率マイクロ波加熱方式の開発	柏 達也		○		○				○								○																			
	25	マイクロ波の電磁場解析及び熱解析に関する研究	柏 達也		○		○				○								○																			
(独) 日本原子力研究開発機構/立命館大学総合科学技術研究機構	24	偏波面制御ならびに経時的物性値に即応した高効率マイクロ波加熱方式の開発(Ⅲ)	柏 達也		○		○			○								○																				
(独) 物質・材料研究機構	23	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史		○		○			○	○	○	○	○																							○	
	24	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史		○		○			○	○	○	○	○																								○
	25	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史		○		○			○								○																				
	25	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	古瀬 裕章		○		○			○								○																				
	26	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史		○		○			○								○																				
	26	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	古瀬 裕章		○		○			○								○																				
日産化学工業(株) 化学品事業部	23	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄		○		○			○												○																
	24	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄		○		○			○												○																
	25	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄		○		○			○												○																
	26	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄		○		○			○												○																
日生バイオ(株)	26	道産農産物の機能成分の分析と商品企画	山岸 喬	○			○			○						○																						
日特建設(株)	23	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	川口 貴之		○		○			○	○	○	○								○																○	
	24	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	川口 貴之		○		○			○	○	○									○																	○
	25	過剰水が連続繊維補強土の強度に与える影響把握と現位置強度試験方法の開発	川口 貴之		○		○			○	○	○									○																	○
	25	水酸化鉄の付着による裏面排水材の性能低下が及ぼす構造影響の研究	川口 貴之		○		○			○	○	○	○								○																	○
	26	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	川口 貴之		○		○			○	○	○									○																	○

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成 果													
				オホー ツク圏	道内	道外	オホー ツク圏内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オホー ツク圏内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サイ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他						
日本碍子(株) 電力技術研究所	23	極寒冷地における各種がいしの着氷雪条件下での絶縁特性向上に関する調査研究	有田 敏彦		○		○					○	○	○	○																					○	
	24	がいしの難着氷対策とその特性に関する調査研究	有田 敏彦			○		○					○	○	○	○																				○	
日本国土開発(株)	23	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究	三上 修一			○		○				○	○								○															○	
	24	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究(その2)	三上 修一			○		○				○	○								○															○	
	25	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究(その2)	三上 修一			○		○				○	○								○															○	
日本国土開発(株) 技術センター	26	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	三上 修一			○		○				○	○	○						○																○	
日本製薬工業(株)	23	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	山岸 喬			○	○					○	○	○	○																					○	
	24	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	山岸 喬			○	○					○	○	○	○																					○	
	25	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	山岸 喬			○	○					○	○	○	○																					○	
	26	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の抗酸化活性に関する研究	新井 博文			○	○					○	○	○	○																					○	
	26	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の有用性に関する研究	山岸 喬			○	○					○	○	○	○																					○	
日本電興(株)	23	住宅用24時間換気システムに関する研究	松村 昌典			○		○				○																								○	
日本電信電話(株)アクセスサービスシステム研究所	25	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	黒河 賢二			○		○				○																									
	26	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	黒河 賢二			○		○				○	○	○																						○	
日本放送協会釧路放送局/釧路市教育委員会	26	自然環境が作り出すマリモの球化のメカニズムおよびその生態等調査	中山 恵介	○			○										○																			○	
美幌貨物自動車(株)	23	廃石膏ボード中のフッ素固定・不溶化に関する研究	菅野 亨	○				○				○								○																	
	24	廃石膏ボード中のフッ素固定・不溶化に関する研究	菅野 亨	○				○				○								○																	
美幌町	23	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	○			○					○								○																	○
	24	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	○			○					○								○																	○
	25	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	○			○					○								○																	○

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)		研究分野										成 果									
				オホー	道内	道外	オホー	当地域と	地域を問	その他特	オホー	北海道内	国内	新規	技術	市民	ライ	情	環	ナ	エ	製	社	フ	そ	起	事	技	製	特	そ				
				ホー	内	外	ホー	域と	問	他	ホー	道内	外	規	術	生	フ	報	境	ノ	ネ	造	会	ロ	他	業	業	術	品	許	他				
				ック	道	道	ホー	域と	問	他	ホー	道内	外	規	術	生	フ	報	境	ノ	ネ	造	会	ロ	他	業	業	術	品	許	他				
				ク	道	道	ホー	域と	問	他	ホー	道内	外	規	術	生	フ	報	境	ノ	ネ	造	会	ロ	他	業	業	術	品	許	他				
				ク	道	道	ホー	域と	問	他	ホー	道内	外	規	術	生	フ	報	境	ノ	ネ	造	会	ロ	他	業	業	術	品	許	他				
美幌町	26	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	○			○				○					○	○			○															
北海道ガス(株) 技術開発研究所	23	寒冷地域における総合バイオガスエネルギープラントの構築と性能予測	山田 貴延		○			○				○										○													
	24	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大		○			○				○												○											
	25	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大		○			○				○		○	○									○										○	
	26	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大		○			○				○												○										○	
	26	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究(小型蓄熱層の研究)	山田 貴延		○				○			○											○							○	○				
北海道漁業環境保全対策本部	23	常呂川水系におけるゴルフ場開発の下流水産資源への影響に関する研究	伊藤 純一		○		○				○									○															
北見工業大学生協同組合	26	エゾ鹿の有効活用および地産地消を目的としたレシピ開発	前田 康成	○			○				○			○	○										○					○					
北見市	23	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	○			○				○				○					○													○		
	23	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	○			○				○				○					○													○		
	24	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	○			○					○			○					○														○	
	24	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	○			○					○			○					○													○		
	24	北見市新エネルギー・省エネルギービジョン改訂に係る調査・研究	小原 伸哉	○				○				○			○	○						○												○	
	25	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	○					○			○				○				○														○	
	25	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	○			○					○			○					○														○	
	25	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	○			○					○			○					○														○	
	26	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	○					○			○			○	○				○															○
	26	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	○			○					○			○					○															○
26	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	○			○					○			○	○				○														○		
北見市企業局	23	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○			○				○									○															

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)		研究分野									成 果																												
				オホー	道内	道外	オホー	当	地	そ	オホー	北	国	新	技	市	ラ	情	環	ナ	エ	製	社	フ	そ	起	事	技	製	特	そ																						
				ホーク	内	外	ホーク	地	域	他	ホーク	海	内	規	術	民	イフサイ	報	境	ノテ	ネル	造	会	ンテ	他	業	業	術	品	許	他																						
				ク							道		外			生	フサイ	通																																			
北見市企業局	23	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	○					○										○																																		
	23	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	○					○		○								○																																		
	23	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	○					○						○	○			○																						○												
	23	消火ガス発電排熱有効利用に関する研究	山田 貴延	○					○		○											○																															
	23	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	○					○										○																																		
	23	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○					○										○																																		
	24	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○					○										○																																		
	24	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	○					○		○									○																																	
	24	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	○					○		○									○																																	
	24	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	○					○						○	○			○																											○							
	24	消化ガス発電排熱有効利用に関する研究	山田 貴延	○					○		○											○																															
	24	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	○					○										○																																		
	24	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○					○										○																																		
	25	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○					○										○																																		
	25	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	○					○		○									○																																	
	25	下水処理場内未利用エネルギーの有効利用に関する研究	山田 貴延	○					○		○											○																															
	25	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	○					○						○				○																															○			
	25	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	川口 貴之	○					○						○	○																																					
	25	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	○					○										○																																		
	25	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	○					○										○																																		

機 関 名	年度	研 究 題 目	研究代表者	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野										成 果															
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他											
北見市企業局	26	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	坂上 寛敏	○			○				○					○																										
	26	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	○					○		○					○																										
	26	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	○				○			○			○	○	○																										
	26	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	川口 貴之	○				○			○			○								○																				
	26	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	○				○			○					○																										
	26	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	坂上 寛敏	○				○			○					○																										
北見市産学官連携推進協議会	23	水産加工場排水処理装置の開発と実証試験研究	堀内 淳一	○					○				○			○																										
北見市立東陵中学校	23	中学生向けの学習ソフトウェアの開発研究	亀丸 俊一	○					○					○	○																											
北見情報技術(株)	25	構造体による自然対流への影響の観測及び流れ構造の解析	松村 昌典	○					○															○																		
北見土木技術協会	23	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	高橋 清	○					○												○																					
	24	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	高橋 清	○					○						○	○						○																				
	25	北見市内における詳細な地盤内凍結領域の把握	川口 貴之	○				○			○				○							○																				
	26	表面波探査を用いた季節変化に伴う地盤剛性変化の把握	川口 貴之	○						○					○	○						○																				
網走測量設計協会	23	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	○					○					○	○						○																					
	24	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	○						○												○																				
	25	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	○						○												○																				
	26	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	○						○					○	○	○					○																				
紋別市	23	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	○				○								○																										
	24	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	○				○								○	○																									
	25	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	○				○								○	○																									

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野								成果																	
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他										
23	着雪がいしのフラッシュオーバー・メカニズムと耐電圧試験法の検討	有田 敏彦	財団法人電力中央研究所			○	○							○																									○		
23	コロナ耐電処理によるガラス表面改質/インプリント法とコロナ帯電法を用いたナノ構造形成技術に関する研究	原田 建治	旭硝子株式会社/北海道大学			○		○																																	
23	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓	芝浦工業大学			○		○										○																						○	
23	バイオマス資源を有効活用した道路法面緑化工法の検討	中村 大	株式会社構研エンジニアリング		○			○					○		○							○																		○	
23	STAMPERを用いた乗り心地悪化箇所の抽出	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道		○			○					○	○	○							○																		○	
23	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦	東北電力株式会社 研究開発センター			○		○							○																										
23	太陽熱利用機器の高度利用について	三木 康臣	道東ネイチャーテック倶楽部	○				○										○																							
23	日本語文書分析手法の研究	榎井 文人	株式会社カンテック			○		○				○	○		○																									○	
23	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	浪越 毅	丸善石油化学株式会社			○		○										○																						○	
23	木質バイオマスの鉄触媒炭化による高導電性炭素の製造	鈴木 勉	協同組合ラテスト			○		○					○						○																					○	
23	一般路対応簡易IRI測定システム開発と新興国路面性状の把握	川村 彰	株式会社ワーカム北海道		○			○																																○	
23	ごみBOXの製品改良と製造能率向上に関する研究・開発	翰師 守	札幌シティ環境株式会社		○			○																																	
23	一般道用IRI測定手法の研究	川村 彰	株式会社共和電業			○		○																																	
23	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的な研究	高橋 信夫	斜里町	○			○							○	○																									○	
23	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	紋別市	○			○																																		
23	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	美幌町	○			○																																	○	
23	超低電圧動作アナログ回路の研究	谷本 洋	ルネサスエレクトロニクス株式会社			○		○					○	○	○																										○
23	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究	三上 修一	日本国土開発株式会社			○		○																																	○

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲		研究対象(目標)		研究分野							成果																	
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他							
23	風力発電と連携した水電解システム制御技術の研究	田村 淳二	株式会社日立製作所 中央研究所			○												○																				
23	送電設備の落水対策技術に関する研究(その7)	有田 敏彦	東京電力株式会社			○																																○
23	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓	株式会社富士通研究所			○												○																				
23	極寒冷地における各種がいしの着氷条件下での絶縁特性向上に関する調査研究	有田 敏彦	日本碍子株式会社 電力技術研究所			○						○	○	○	○	○																						○
23	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	ホクレン包材株式会社			○						○	○					○																				○
23	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史	独立行政法人物質・材料研究機構			○						○	○	○	○	○																						○
23	電気自動車の普及促進と電気自動車を活用した地域振興に関する研究	高橋 清	パシフィックコンサルタンツ株式会社			○						○									○																	○
23	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎	株式会社レクザム			○						○	○	○	○	○																						○
23	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	北見市企業局	○												○																						
23	道内産農業廃棄物の有効利用に関する研究	佐藤 利次	企業組合北見産学医協働センター	○									○																									○
23	ベリー類の機能性に関する研究	新井 博文	企業組合北見産学医協働センター	○										○																								○
23	道内産農産物の化粧品化に関する研究	山岸 喬	企業組合北見産学医協働センター	○										○																								○
23	中学生向けの学習ソフトウェアの開発研究	亀丸 俊一	北見市立東陵中学校	○																																		○
23	STAMPER II を活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	川村 彰	大成ロテック株式会社			○							○																									○
23	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	網走測量設計協会	○									○	○																								○
23	材料延性損傷進展に関するX線の検討	柴野 純一	社団法人北見工業技術センター運営協会	○														○																			○	
23	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた”舗装の評価システム”の実用化に関する研究	川村 彰	ティーアール・コンサルタント株式会社			○																																○
23	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	川口 貴之	日特建設株式会社			○							○	○	○	○																						○
23	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	高橋 清	北見土木技術協会	○																																		
24	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦	東北電力株式会社 研究開発センター			○																																

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野										成果									
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他					
24	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	山岸 喬	日本製菓工業株式会社			○	○						○	○	○	○	○																			○
24	大規模FDTD法を使った電磁界解析技術の構築に関する共同研究	柏 達也	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター			○										○																				
24	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史	独立行政法人物質・材料研究機構			○							○	○	○	○																			○	
24	STAMPER IIを活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	川村 彰	大成ロテック株式会社			○							○	○	○						○														○	
24	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	網走測量設計協会	○							○										○															
24	改良型STAMPER IIとFWDを組み合わせた”舗装の評価システム”の実用化に関する研究	川村 彰	ティーアール・コンサルタント株式会社			○							○								○															
24	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	川口 貴之	日特建設株式会社			○							○	○							○														○	
24	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	高橋 清	北見土木技術協会	○									○								○															
24	閉鎖性水域における環境影響評価	中山 恵介	国土技術政策総合研究所			○							○																							○
24	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖	独立行政法人産業技術総合研究所／国立大学法人茨城大学			○									○																					
24	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにゴミ質調査共同研究	中山 恵介	北見市	○			○						○																							○
24	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	高橋 信夫	斜里町	○			○						○																							○
24	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	美幌町	○			○						○																							○
24	北見市新エネルギー・省エネルギービジョン改訂に係る調査・研究	小原 伸哉	北見市	○			○						○	○																						○
24	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	渡邊 康玄	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所		○								○									○														○
24	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	浪越 毅	丸善石油化学株式会社			○							○	○	○																					○
24	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	紋別市	○			○						○																							○
24	木質系材料の触媒炭化による電磁波遮蔽用炭素の製造	鈴木 勉	協同組合ラテスト			○							○	○																						○
24	架空地線の着水抑制・落水低減に関する基礎研究	有田 敏彦	中部電力株式会社 電力技術研究所			○							○																							
24	革新的使用済みプラスチック分解技術に関する基礎研究	岡崎 文保	JFEスチール株式会社			○							○	○																						○

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成果														
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他						
24	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○			○					○	○				○													○							
24	多糖類を利用した機能性素材の開発	兼清 泰正	花王株式会社			○							○	○				○																○			
24	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	常呂川水系環境保全対策協議会	○			○					○																							○		
24	香気物質の分析・解析	山岸 喬	金印株式会社	○					○			○	○	○						○																○	
24	サンゴの高機能性化の研究	山岸 喬	株式会社健康水素協会			○							○	○	○					○																○	
24	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	北見市企業局	○					○									○																			
24	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎	株式会社レクザム			○																		○													
24	一般路対応簡易IRI測定システム開発及び各国路面IRIデータ収集と活用	川村 彰	株式会社ワーカム北海道		○																															○	
24	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	北見市	○			○											○																		○	
24	新エネルギーシステム変動抑制技術の検討/系統連系インバータ用系統モデル化検討	田村 淳二	株式会社日立製作所日立研究所/株式会社日立産機システム			○																															
24	機械インピーダンス法を用いた寒冷地コンクリート開水路の劣化診断技術の研究	井上 真澄	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所/日東建設株式会社		○							○	○	○	○						○															○	
24	スカイラジエータに関する開発研究	三木 康臣	株式会社大阪テクノクラート			○																															
24	インプリント法とコロナ帯電法を用いたナノ構造形成技術に関する研究	原田 建治	旭硝子株式会社 技術本部技術企画室/国立大学法人北海道大学電子科学研究所			○																															
24	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○					○																												
24	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	北見市企業局	○			○																														
24	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	北見市企業局	○			○																														
24	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	北見市企業局	○			○																														
24	超低電圧動作アナログ回路の研究	谷本 洋	ルネサスエレクトロニクス株式会社			○																															○
24	橋梁維持管理におけるスマートセンターの利活用に関する研究	宮森 保紀	株式会社豊水設計		○																																○

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の 所在			研究素材の 地域性			相手方の 事業範囲		研究対象 (目標)			研究分野							成 果																
				オ ホー ツク 圏	道 内	道 外	オ ホー ツク 圏 内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オ ホー ツク 圏 内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サ イ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他							
24	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄	日産化学工業株式会社 化学品事業部			○					○										○																	
24	着雪がいしのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	川村 彰	一般財団法人電力中央研究所			○		○				○								○															○			
24	IDMA受信機のデジタル回路構成法の課題抽出と解決法に関する研究	吉澤 真吾	株式会社KDDI研究所			○		○			○																											
24	廃石膏ボード中のフッ素固定・不溶化に関する研究	菅野 亨	美幌貨物自動車株式会社	○				○			○						○																					
24	粒子分散型MMCの開発	伊藤 英信	一般社団法人北見工業技術センター運営協会	○				○			○	○	○																						○			
24	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷プロファイル抽出方法	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道		○			○			○																											
24	偏波面制御ならびに経時的物性値に即応した高効率マイクロ波加熱方式の開発(Ⅲ)	柏 達也	独立行政法人日本原子力研究開発機構/立命館大学総合科学技術研究機構			○		○			○								○																			
24	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓	株式会社富士通研究所			○		○			○	○	○																							○		
24	がいしの難着氷対策とその特性に関する調査研究	有田 敏彦	日本碍子株式会社 電力技術研究所			○		○			○	○	○	○	○																					○		
24	送電設備の落水対策技術に関する研究(その8)	川村 彰	東京電力株式会社 技術開発研究所			○		○			○																									○		
24	低価格水産加工排水処理施設の研究開発	堀内 淳一	株式会社池知建設/北見市	○				○			○																									○		
24	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬	株式会社ハーバー研究所			○	○				○																											
24	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	一般社団法人北見工業技術センター運営協会	○				○			○	○																								○		
24	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善-白煙、臭気に関する研究	林田 和宏	いすゞ自動車株式会社			○		○			○	○						○																		○	○	
24	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰	株式会社高速道路総合技術研究所			○		○			○	○																								○		
24	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保	三恵技研工業株式会社 赤羽工場			○		○			○																											
24	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大	北海道ガス株式会社 技術開発研究所		○			○			○																											
24	消化ガス発電排熱有効利用に関する研究	山田 貴延	北見市企業局	○				○			○																											
24	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉	PVG Solutions 株式会社/株式会社KITABA			○		○			○	○	○																							○		
24	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究	川口 貴之	岡三リビック株式会社/東京インキ株式会社			○		○			○	○	○																								○	○

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野							成果									
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他	
24	モミ殻半炭化物から発生するタールの実用除去法の開発	鈴木 勉	エンバイオテック株式会社			○		○				○	○							○						○		○				
24	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究(その2)	三上 修一	日本国土開発株式会社			○		○				○	○								○							○				
24	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也	E&Cエンジニアリング株式会社			○		○				○	○		○												○		○			
24	コーナリング速度を向上するスピードスケート靴に関する研究	鈴木 聡一郎	国立大学法人筑波大学			○		○				○		○													○					
24	STAMPER II 及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰	大成ロテック株式会社			○		○				○	○	○							○						○					
24	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	川村 彰	ティーアール・コンサルタント株式会社			○		○				○									○											
24	「STAMPERを活用した簡易IRI測定技術」の共同研究・開発	川村 彰	株式会社共和電業/株式会社ワーカム北海道/大成ロテック株式会社			○		○				○	○	○							○						○	○	○			
24	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓	芝浦工業大学			○		○				○					○															
25	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	山岸 喬	日本製薬工業株式会社			○	○					○	○	○	○																○	
25	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	網走測量設計協会	○				○		○											○											
25	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	渡邊 康玄	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所		○			○				○		○							○											○
25	一般路対応簡易IRI測定システム開発及び各国路面IRIデータ収集と活用	川村 彰	株式会社ワーカム北海道		○			○				○									○						○					
25	スカイラジエータに関する開発研究	三木 康臣	株式会社大阪テクノクラート			○		○				○																				
25	着雪がいのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	川村 彰	一般財団法人電力中央研究所			○		○				○																				
25	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷プロファイル抽出プログラム	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道		○			○				○									○											
25	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰	株式会社高速道路総合技術研究所			○		○				○									○											○
25	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大	北海道ガス株式会社 技術開発研究所		○			○				○	○	○							○											○
25	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉	PVG Solutions 株式会社/株式会社KITABA			○		○				○	○	○												○	○	○				
25	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究	川口 貴之	岡三リビック株式会社/東京インキ株式会社			○		○				○	○	○							○					○	○	○				
25	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究(その2)	三上 修一	日本国土開発株式会社			○		○				○	○								○						○					

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)					研究分野					成果																											
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他																				
25	環北極陸域システムの変動と気候への影響	佐々木 正史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所		○				○		○					○																																			
25	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	亀田 貴雄	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所		○				○		○					○																																			
25	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	館山 一孝	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所		○				○		○					○																																			
25	STAMPER II 及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰	大成ロテック株式会社		○			○			○										○																														
25	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	川村 彰	ティーアール・コンサルタント株式会社		○			○			○										○																														
25	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史	独立行政法人物質・材料研究機構		○			○			○						○																																		
25	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	武山 真弓	芝浦工業大学		○			○			○	○					○																																		
25	ファイバレーザーによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖	独立行政法人産業技術総合研究所／国立大学法人茨城大学		○			○			○	○	○		○																																				
25	前方路面の状態検出に関する研究	高橋 修平	ヤマハ発動機株式会社		○			○			○	○	○																																						
25	電力系統－機器連成解析技術に関する研究	田村 淳二	株式会社日立製作所		○			○			○	○	○																																						
25	新エネルギーシステム変動抑制技術の検討／系統連系インバータのモデル化検討	田村 淳二	株式会社日立製作所 日立研究所／日立研究所・株式会社日立産機システム		○			○			○	○	○																																						
25	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	高橋 信夫	斜里町	○			○				○					○																																			
25	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	紋別市	○			○				○					○	○																																		
25	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	美幌町	○			○				○					○																																			
25	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	北見市	○			○				○					○																																			
25	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	北見市	○			○				○					○																																			
25	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	川口 貴之	北見市企業局	○			○				○	○									○																														
25	風車による系統電圧の変動抑制技術の開発	高橋 理音	株式会社日本製鋼所 室蘭製作所 風力製品部		○			○			○																																								
25	光分解性ポリオレフィン系樹脂の微生物による生分解に関する研究	中谷 久之	国立大学法人帯広畜産大学		○			○			○	○				○																																			
25	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	常呂川水系環境保全対策協議会	○			○				○					○																																			

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)				研究分野								成果																
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他											
25	機械インピーダンス法を用いた寒冷地コンクリート開水路の劣化診断技術の研究	井上 真澄	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所/日東建設株式会社		○								○		○	○	○																○	○								
25	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○									○																								○					
25	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也	E&Cエンジニアリング株式会社											○																								○	○			
25	循環資源等の革新的ガス化技術に関する研究	岡崎 文保	JFEスチール株式会社																○																				○			
25	水酸化鉄の付着による裏面排水材の性能低下が及ぼす構造影響の研究	川口 貴之	日特建設株式会社																																				○			
25	橋梁維持管理におけるスマートセンサーの利活用に関する研究	宮森 保紀	株式会社豊水設計		○																																		○			
25	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	ホクレン包材株式会社		○														○																				○	○		
25	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○																																						
25	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	北見市企業局	○																																						
25	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	北見市企業局	○																																						
25	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	高橋 信夫	北見市企業局	○																																						
25	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷箇所の抽出及び補修延長の検討	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道		○																																					
25	IDMA送受信機の試作と実証実験	吉澤 真吾	株式会社KDDI研究所																																							
25	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 真弓	株式会社富士通研究所																																							
25	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	北見市	○																																					○	
25	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰	株式会社高速道路総合技術研究所																																						○	
25	おんねゆ温泉・山の水族館 凍る滝の開発	高橋 修平	果夢林ショップ運営協議会	○																																					○	○
25	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎	株式会社レクザム																																					○		
25	専用EWS上で稼働可能な実車大規模FDTD電磁界解析システムの開発	柏 達也	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター																																						○	
25	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	井上 真澄	水元建設株式会社	○																																						

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)					研究分野					成果								
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他	
25	ポリマーがいはの塩分付着特性に関する研究	有田 敏彦	東北電力株式会社 研究開発センター/日本ガイシ株式会社 電力事業本部 電力技術研究所			○		○					○	○													○					
25	機能的なコンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄	日産化学工業株式会社 化学品事業部			○		○					○							○												
25	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬	株式会社ハーバー研究所			○							○																			
25	GPS誘導空撮機による河川および海岸工事施工調査	羽二生 博之	株式会社エクサ設計	○				○												○												
25	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	宮森 保紀	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所		○			○					○	○							○										○	
25	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善-白煙、臭気に関する研究	林田 和宏	いすゞ自動車株式会社			○		○					○					○														
25	GPSとWebを用いた緊急車両の冬季運用遠隔支援システムの開発	羽二生 博之	株式会社ワーカム北海道			○							○	○	○					○								○				
25	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	一般社団法人 北見工業技術センター運営協会	○				○														○										
25	下水処理場内未利用エネルギーの有効利用に関する研究	山田 貴延	北見市企業局	○				○											○													
25	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	宮森 保紀	オイレス工業株式会社			○		○					○							○												
25	GMT材料の高機能化に関する研究	伊藤 英信	一般社団法人 北見工業技術センター運営協会	○				○												○												
25	マイクロ波の電磁場解析及び熱解析に関する研究	柏 達也	独立行政法人日本原子力研究開発機構			○		○					○							○												
25	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	大橋 鉄也	学校法人五島育英会東京都立大学			○		○					○							○												
25	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	吉澤 真吾	独立行政法人海洋研究開発機構/三菱電機特機システム株式会社/三菱電機株式会社 情報技術総合研究所			○		○					○	○														○				
25	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	吉澤 真吾	三菱電機特機システム株式会社			○		○					○																			
25	北見市内における詳細な地盤凍結領域の把握	川口 貴之	北見土木技術協会	○				○					○								○											○
25	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	佐藤 利次	企業組合北見産学医協働センター	○				○					○										○									○
25	地域材循環システム構築に関する研究	川村 彰	企業組合北見産学医協働センター	○				○					○										○									○
25	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業の効果に関する研究	川村 彰	企業組合北見産学医協働センター	○				○					○	○									○									○

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲		研究対象(目標)			研究分野							成果																	
				オ ホー ツク 圏	道 内	道 外	オ ホー ツク 圏 内	当 地 域 と 同 質 地 域	地 域 を 問 わ ない	そ の 他 特 定 地 域	オ ホー ツク 圏 内	北 海 道 内	国 内 外	新 規 事 業 化 型	技 術 改 良 型	市 民 生 活 貢 献 型	ラ イ フ サ イ エ ン ス	情 報 通 信	環 境	ナ ノ テ ク ノ ロ ジ ー ・ 材 料	エ ネ ル ギ ー	製 造 技 術	社 会 基 盤	フ ロ ン テ ィ ア	そ の 他	起 業 化	事 業 化	技 術 実 用 化	製 品 化	特 許 化	そ の 他									
25	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	黒河 賢二	日本電信電話株式会社アクセスサービスシステム研究所			○					○						○																							
25	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保	三恵技研工業株式会社 赤羽工場			○					○							○																						
25	精神科病院のマネジメントに関する研究	有田 敏彦	医療法人社団 拓美会 玉越病院	○							○			○	○									○												○				
25	構造体による自然対流への影響の観測及び流れ構造の解析	松村 昌典	北見情報技術株式会社	○							○													○																
25	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの実現	小原 伸哉	リコーITSソリューションズ株式会社			○						○	○	○	○											○														
25	希土類添加透光性アルミナ多結晶の創製	古瀬 裕章	独立行政法人物質・材料研究機構			○												○																						
25	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史	JX日鉱日石エネルギー株式会社 水素・FC研究所			○													○																					
25	雪氷状態モニタリング技術の開発	舘山 一孝	独立行政法人宇宙航空研究開発機構／株式会社センテナリア			○					○	○		○										○				○								○	○			
25	帯状ガイドライトの設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北			○						○	○	○	○										○			○												
25	過剰水が連続繊維補強土の強度に与える影響把握と現位置強度試験方法の開発	川口 貴之	日特建設株式会社			○						○		○	○										○												○			
25	凍結融解作用と実物大補強土壁の性能に関する実験研究	川口 貴之	岡三リビング株式会社／東京インキ株式会社			○						○	○	○	○										○			○												
26	常呂産ニニク及びタマネギを用いた原料・製品の有用性に関する研究	山岸 喬	日本製薬工業株式会社			○	○					○	○	○																								○		
26	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	大島 俊之	網走測量設計協会	○										○	○	○										○														
26	着雪がいのフラッシュオーバ機構解明と放電特性の検討	川村 彰	一般財団法人電力中央研究所			○													○																					
26	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	中村 大	北海道ガス株式会社 技術開発研究所		○																																		○	
26	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	小原 伸哉	PVG Solutions 株式会社／株式会社KITABA			○						○	○	○	○											○														
26	凍結融解作用と実物大補強土壁の性能に関する実験研究	川口 貴之	岡三リビング株式会社／東京インキ株式会社			○						○	○	○	○										○			○												
26	環北極陸域システムの変動と気候への影響	佐々木 正史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所			○						○	○	○					○																					
26	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	亀田 貴雄	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所			○						○	○	○					○																					
26	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	舘山 一孝	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所			○						○	○	○					○																					

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲			研究対象(目標)						研究分野					成果																
				オ	道	道	オ	当	地	そ	オ	北	国	新	技	市	ラ	情	環	ナ	エ	製	社	フ	そ	起	事	技	製	特	そ									
				ホ	内	外	ホ	地	域	他	ホ	海	内	規	術	民	情	ナ	エ	製	社	フ	そ	起	事	技	製	特	そ											
26	STAMPER II 及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	川村 彰	大成ロテック株式会社			○			○			○	○	○							○											○								
26	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた”改良型舗装の評価システム”の補完	川村 彰	ティーアール・コンサルタント株式会社			○			○			○										○																		
26	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	大津 直史	独立行政法人物質・材料研究機構			○			○			○							○																					
26	ファイバレーザーによる超広帯域光の発生に関する研究	曾根 宏靖	独立行政法人産業技術総合研究所/国立大学法人茨城大学			○			○			○	○	○	○		○																						○	
26	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰	株式会社高速道路総合技術研究所			○			○			○										○																		
26	専用EWS上で稼働可能な実車大規模FDTD電磁界解析システムの開発	柏 達也	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター			○			○			○	○	○			○																						○	
26	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	井上 真澄	水元建設株式会社	○					○			○										○																		
26	ポリマーがいはの塩付着特性に関する研究	有田 敏彦	東北電力株式会社 研究開発センター/日本ガイシ株式会社 電力事業本部 電力技術研究所			○			○			○	○	○						○																			○	
26	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	宮森 保紀	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所			○			○			○		○								○																	○	
26	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	宮森 保紀	オイレス工業株式会社			○			○			○		○	○							○																	○	
26	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	大橋 鉄也	学校法人五島育英会東京都市大学			○			○			○																												
26	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	吉澤 真吾	独立行政法人海洋研究開発機構/三菱電機特機システム株式会社/三菱電機株式会社 情報技術総合研究所			○			○			○	○							○																			○	
26	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	吉澤 真吾	三菱電機特機システム株式会社			○			○			○										○																		
26	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	黒河 賢二	日本電信電話株式会社アクセスサービスシステム研究所			○			○			○	○	○								○																	○	
26	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史	JX日鉱日石エネルギー株式会社 水素・FC研究所			○			○			○																												
26	精神科病院のマネジメントに関する研究	有田 敏彦	医療法人社団 拓美会 玉越病院	○					○			○			○								○																○	
26	常呂産ニク及びタマネギを用いた原料・製品の抗酸化活性に関する研究	新井 博文	日本製薬工業株式会社			○	○					○	○	○																										○
26	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	山岸 喬	株式会社ハーバー研究所			○	○					○																												
26	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	古瀬 裕章	独立行政法人物質・材料研究機構			○			○			○																												

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)				研究分野							成果						
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他
26	雪氷状態モニタリング技術の開発	館山 一孝	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 株式会社センテシヤ			○					○	○	○	○								○				○		○			
26	帯状ガイドライトの設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北			○		○			○										○										
26	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	岡崎 文保	三恵技研工業株式会社 赤羽工場			○		○			○						○														
26	境界要素法を用いた電磁波厳密計算に関する研究	杉坂 純一郎	株式会社東芝 生産技術センター 光技術研究センター			○		○			○	○	○		○											○					
26	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	南 尚嗣	紋別市	○			○				○					○														○	
26	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	中山 恵介	北見市	○			○				○		○			○															
26	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	川村 彰	北見市	○				○			○	○			○																
26	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	小原 伸哉	リコーITソリューションズ株式会社			○		○			○	○	○					○													
26	電力系統-機器連成解析技術に関する研究	田村 淳二	株式会社日立製作所 日立研究所			○		○			○						○														
26	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	柏 達也	E&Cエンジニアリング株式会社			○		○			○	○			○															○	
26	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	村田 美樹	美幌町	○			○				○		○		○																
26	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	坂上 寛敏	斜里町	○			○				○		○		○															○	
26	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	川口 貴之	北見市企業局	○			○				○		○							○						○					
26	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	中山 恵介	北見市	○			○				○		○		○															○	
26	緊急車両遠隔支援システム開発	羽二生 博之	株式会社ワーカム北海道			○		○			○	○														○					
26	常呂川水系水質調査研究	中山 恵介	常呂川水系環境保全対策協議会	○			○				○		○		○															○	
26	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○			○				○	○	○		○											○					
26	光触媒フィルターに関する研究	伊藤 英信	一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	○				○			○		○		○											○					
26	抗菌剤配合の暗渠パイプを用いた水酸化鉄の付着軽減可能性の検証	川口 貴之	三井化学産資株式会社			○		○			○	○							○											○	
26	廃プラスチック等のガス化メカニズムに関する研究	岡崎 文保	JFEスチール株式会社			○		○			○	○						○								○					

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性				相手方の事業範囲			研究対象(目標)					研究分野										成果															
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同質地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他													
26	簡易IRI測定装置を利用した局所的な路面損傷評価手法の検討	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道	○																																								
26	簡易IRI測定装置を利用した路面プロファイル評価手法の検討	川村 彰	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道	○																																								
26	無水二糖モノマーの開環重合と生物化学反応による抗インフルエンザウイルス性糖鎖の合成と評価	吉田 孝	大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所			○																																		○				
26	北見発のメタン直接改質技術による水素・ナノ炭素併産及び持続的の高度利用	岡崎 文保	オホーツク新エネルギー開発推進機構	○			○						○	○																										○				
26	廃トンネル内雪室の冷熱エネルギーを利用した農作物の貯蔵	館山 一孝	オホーツク新エネルギー開発推進機構	○				○							○	○	○																											
26	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	鈴木 聡一郎	株式会社レクザム									○	○	○	○												○												○	○				
26	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	宇都 正幸	ホクレン包材株式会社		○													○																							○			
26	道産農産物の機能成分の分析と商品企画	山岸 喬	日生バイオ株式会社		○																																							
26	橋梁維持管理におけるモニタリングデータの貯蔵と活用に関する研究	宮森 保紀	株式会社豊水設計		○								○	○	○																										○			
26	低温バリア絶縁膜に関する研究	武山 眞弓	株式会社富士通研究所																																									
26	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	南 尚嗣	北見市企業局	○																																								
26	下水汚泥の堆肥化に関する研究	堀内 淳一	北見市企業局	○																																								
26	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	坂上 寛敏	北見市企業局	○																																								
26	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	坂上 寛敏	北見市企業局	○																																								
26	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	井上 真澄	日産化学工業株式会社 化学品事業部				○						○																															
26	改良土の強度・変形特性に関する研究	川尻 峻三	公益財団法人鉄道総合技術研究所																																									
26	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	中村 大	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所		○																																						○	
26	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善 ー白煙、臭気に関する研究	林田 和宏	いすゞ自動車株式会社																																									
26	風車による系統制御技術の開発	高橋 理音	株式会社日本製鋼所 室蘭製作所		○																																							○
26	おんねゆ温泉・山の水族館 凍る滝の研究開発	白川 龍生	果夢林ショッピング運営協議会	○																																								

年度	研究テーマ	研究代表者	共同研究機関	相手機関の所在			研究素材の地域性			相手方の事業範囲			研究対象(目標)			研究分野								成果															
				オホーツク圏	道内	道外	オホーツク圏内	当地域と同一地域	地域を問わない	その他特定地域	オホーツク圏内	北海道内	国内外	新規事業化型	技術改良型	市民生活貢献型	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・材料	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	起業化	事業化	技術実用化	製品化	特許化	その他								
26	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用研究(小型蓄熱層の研究)	山田 貴延	北海道ガス株式会社 技術開発研究所		○				○											○															○	○			
26	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	富士 明良	一般社団法人北見工業技術センター運営協会	○						○				○	○										○										○				
26	PVCガス除湿システム基礎研究	石谷 博美	株式会社ワーカム北海道		○					○			○																							○			
26	高速道路における走行快適性に関する共同研究	川村 彰	株式会社高速道路総合技術研究所			○						○										○																	
26	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	佐藤 利次	企業組合 北見産学医協働センター	○						○															○														
26	地域材循環システム構築に関する研究	川村 彰	企業組合 北見産学医協働センター	○						○															○														
26	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の効果に関する研究	川村 彰	企業組合 北見産学医協働センター	○						○															○														
26	表面波探査を用いた季節変化に伴う地盤剛性変化の把握	川口 貴之	北見土木技術協会	○						○			○											○														○	
26	電磁波の厳密計算に関する研究	杉坂 純一郎	株式会社東芝 生産技術センター 光技術研究センター			○							○	○																							○		
26	スキーブーツのフットベッド用パーツの基本設計に関する研究	鈴木 聡一郎	ブレイン株式会社		○								○												○														
26	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	小原 伸哉	リコーI Tソリューションズ株式会社			○						○	○	○	○																					○			
26	知識情報処理技術のヘルスケアへの対応	前田 康成	アドバンスヘルスケア株式会社			○						○													○														
26	エゾ鹿の有効活用および地産地消を目的としたレシピ開発	前田 康成	北見工業大学生生活協同組合	○			○						○		○										○														
26	水中音響通信装置の実証検証	吉澤 真吾	三菱電機特機システム株式会社			○									○																								
26	自然環境が作り出すマリモの球化のメカニズムおよびその生態等調査	中山 恵介	日本放送協会釧路放送局/釧路市教育委員会		○		○										○																				○	○	
26	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	大津 直史	JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所			○							○	○											○														
26	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	三上 修一	日本国土開発 株式会社 技術センター			○							○	○	○										○													○	○
26	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	川口 貴之	日特建設株式会社			○							○		○										○														○

発行日 平成 28 年 3 月

<外部評価・編集>

北見工業大学共同研究に関する外部評価ワーキンググループ委員

一般社団法人北見工業技術センター運営協会

地域産業プロデューサー 二 俣 正 美

芝綜合法律事務所弁護士 舩 井 一 仁

北海道大学産学・地域協働推進機構特任教授 末 富 弘